



B.LEAGUE U18

# STATS REPORT 2025

2021.06.26 sat - 2025.02.24 mon

# INDEX

はじめに	02
<b>B.LEAGUE ユースとは</b>	
目的 / 目指す場所 / 強み	04-05
<b>GLOSSARY</b>	06
<b>B.LEAGUE ユースの現在地</b>	
競技力成長の軌跡	07-15
現状の競争力	16-23
U18 日清食品トップリーグとの比較	24-32
海外ユースとの比較	33-35
<b>U22 枠契約選手の B.LEAGUE U18 での活躍</b>	36-37
レバンガ北海道 内藤耀悠	38
サンロッカーズ渋谷 大森康瑛	39
名古屋ダイヤモンドドルフィンズ 今西優斗	40
琉球ゴールデンキングス 佐取龍之介	41
<b>B.LEAGUE ユースの課題と今後の展望</b>	42

## はじめに

本レポートは、2021年に設立された B.LEAGUE U18 を対象に、公式記録やスタッツを分析することで、その特徴や課題を明確化し、今後の成長およびバスケットボール界全体への貢献に資することを目的とする。

設立から数年の間に急速な発展を遂げてきた B.LEAGUE U18 について、  
本レポートでは単に B.LEAGUE ユース競技会の動向を整理するにとどまらず、  
日本国内の高校バスケットボールとの比較や、海外チームとの対照分析を交えながら現状を多角的に検証することで、  
B.LEAGUE U18 の現在地を紐解いていく。

# B.LEAGUE ユースとは



## > B.LEAGUE ユースの目的

B.LEAGUE の使命である「世界に通用する選手を輩出する」ため  
選手を育成し、強化する環境を創り出すとともに、  
わが国におけるバスケットボール文化の普及と発展のために設立。



## > B.LEAGUE ユースの目指す場所

2024  
パリ五輪

2025

2026

2027  
WC@ カタール

2028  
LA 五輪

2029

2030

2031  
WC

2032  
ブリスベン五輪

B.LEAGUE ユース出身  
**A 代表選手** 輩出

B.LEAGUE ユース出身選手から日本代表選手を輩出した 2024 年。次なる目標は、2032 年  
**B.LEAGUE ユース出身選手から NBA 選手を輩出。**

B.LEAGUE ユース出身  
**NBA 選手** 輩出

## ➤ B.LEAGUE ユースの強み

### ■ トップチームと連携したバスケットボール

### ■ プロとの距離が近い環境 ●

➤ トップチームの練習参加、**ユース育成特別枠**、**U22 枠** 等

### ■ 一定のライセンス / 資格を保持したコーチや

トレーナー配置による指導における質の担保 ●

### ■ U15 call up 制度活用による U18 競技環境内での U15 選手育成・強化

➤ U15 登録選手が U18 競技会に出場できる制度

### ■ 年代別代表以外に海外と対戦する機会の創出

### ■ 海外への遠征や経験の機会をより多くの優秀な選手に提供

### ■ SCS 推進チームと連携した身体に対する取組み

データ収集・分析

B.LEAGUE では育成強化の促進を目的に、B.LEAGUE ユースに所属しながらプロの試合に出場することができる「ユース育成特別枠」を、また B.LEAGUE ユース出身選手が契約可能な選手登録制度として「U22 枠」を導入している。またトップチーム（プロ）のワークアウトや練習にユース選手が参加するなど、プロに近い環境で活動を行っている

B.LEAGUE ユースでは世界に通用する選手の輩出に向けて選手個人の成長を重視し、日常における指導の質や安全面を担保するため、一定のライセンスや資格を保持したヘッドコーチやアシスタントコーチ、そしてトレーナーが在籍している。

# GLOSSARY - 用語集 -

用語	説明	計算式
<b>ORTG</b>	100 ポゼッションでの平均得点（オフェンスプレーティング）	得点 $\times 100 \div (\text{FG 試投数} + \text{FT 試投数} \times 0.44 - \text{オフェンスリバウンド} + \text{ターンオーバー})$
<b>DRTG</b>	100 ポゼッションでの平均失点（ディフェンスプレーティング）	失点 $\times 100 \div (\text{相手 FG 試投数} + \text{相手 FT 試投数} \times 0.44 - \text{相手オフェンスリバウンド} + \text{相手ターンオーバー})$
<b>NRTG</b>	100 ポゼッションでの平均得失点差（ネットレーティング）	$\text{ORTG} - \text{DRTG}$
<b>eFG%</b>	3P シュートに比重（1.5 倍）をかけて補正したフィールドゴール成功率	$(\text{FG 成功数} + 3\text{P 成功数} \times 0.5) \div \text{FG 試投数}$
<b>TOV%</b>	1 回のオフェンスでチームがターンオーバーをする確率	$\text{ターンオーバー} \div (\text{FG 試投数} + \text{FT 試投数} \times 0.44 + \text{ターンオーバー})$
<b>ORB%</b>	自チームのシュートが外れた際にオフェンスリバウンドを獲得する割合	$\text{オフェンスリバウンド} \div (\text{オフェンスリバウンド} + \text{相手ディフェンスリバウンド})$
<b>FTR</b>	オフェンス時にフリースローを獲得する頻度	$\text{FT 試投数} \div \text{FG 試投数}$
<b>OPP eFG%</b>	3P シュートに比重（1.5 倍）をかけて補正した相手チームのフィールドゴール成功率	$(\text{相手 FG 成功数} + \text{相手 3P 成功数} \times 0.5) \div \text{相手 FG 試投数}$
<b>OPP TOV%</b>	1 回のオフェンスで相手チームがターンオーバーをする確率	$\text{相手ターンオーバー} \div (\text{相手 FG 試投数} + \text{相手 FT 試投数} \times 0.44 - \text{相手オフェンスリバウンド} + \text{相手ターンオーバー})$
<b>OPP ORB%</b>	相手チームのシュートが外れた際にオフェンスリバウンドを相手チームに獲得される割合	$\text{相手オフェンスリバウンド} \div (\text{相手オフェンスリバウンド} + \text{ディフェンスリバウンド})$
<b>OPP FTR</b>	ディフェンス時に相手チームにフリースローを与える頻度	$\text{相手 FT 試投数} \div \text{相手 FG 試投数}$
<b>PACE</b>	1 試合での平均ポゼッション数	$40 \times (\text{ポゼッション数} + \text{相手ポゼッション数}) \div (2 \times (\text{チームプレイタイム} \div 5))$
<b>TS%</b>	フリースローも考慮したシュート成功率	$\text{得点} \div (2 \times (\text{FG 試投数} + \text{FT 試投数} \times 0.44))$
<b>AST/TO</b>	ターンオーバーあたりのアシスト数	$\text{アシスト} \div \text{ターンオーバー}$
<b>AST Ratio</b>	100 ポゼッションでの平均アシスト	$\text{アシスト} \times 100 \div (\text{FG 試投数} + \text{FT 試投数} \times 0.44 - \text{オフェンスリバウンド} + \text{ターンオーバー})$
<b>AST%</b>	フィールドゴール成功数にアシストが付く割合	$\text{アシスト} \div \text{FG 成功数}$

※端数処理の関係で、各ページにあるグラフの内訳の和が 100% にならない場合があります。※各グラフにおけるシーズン表記は、文字数の関係で以下の通り省略して表記しています。例）2021-22 シーズン：2021

# B.LEAGUE ユースの現在地



B.LEAGUE U18 STATS REPORT 2025

COPYRIGHT ©JAPAN PROFESSIONAL BASKETBALL LEAGUE ALL RIGHTS RESERVED.



# B.LEAGUE ユースの競技力成長の軌跡

本項では、2021-22 シーズンから 2024-25 シーズンに開催された B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE、B.LEAGUE U18 REGIONAL LEAGUE の合計 8 大会について、大会全体でのスタッツを集計し、その推移を見ることで、B.LEAGUE ユースの競技力がどのような成長を見せているか、今後に向けてどういった課題があるかを分析していく。

Four Factors とシュートスタッツについては、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE と B.LEAGUE U18 REGIONAL LEAGUE 両方のデータを併記する形とし、両大会で傾向の違いがあるのかを確認できる形式としている。

また、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE については、PACE や 3P シュートなど様々な切り口で、さらに深掘りして分析するコンテンツも設けている。

※2021-22 および 2022-23 シーズンは「B.LEAGUE U18 ELITE 6 LEAGUE」、2023-24 シーズンは「B.LEAGUE U18 ELITE 8 LEAGUE」として開催。

2024-25 シーズンは「インフロニア B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 2024」として開催。

※Four Factors: Dean Oliver が提唱したオフェンス評価指標で、勝敗に強く影響するとされる。

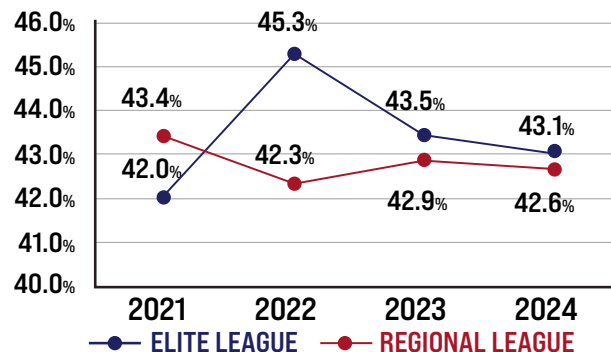
対戦相手チームの OPP Four Factors を見ることでディフェンスの評価にも活用可能。計算方法は Glossary を参照。

# B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE / REGIONAL LEAGUE FOUR FACTORS シーズン推移

B.LEAGUE ユースの競技力成長の軌跡

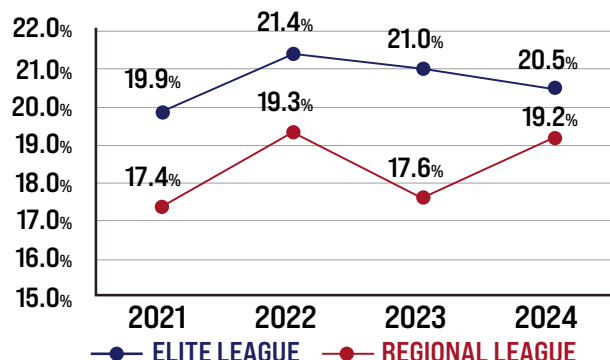
## eFG% 推移

3P シュートに比重 (1.5 倍) をかけて補正したフィールドゴール成功率  
 $(FG \text{ 成功数} + 3P \text{ 成功数} \times 0.5) \div FG \text{ 試投数}$



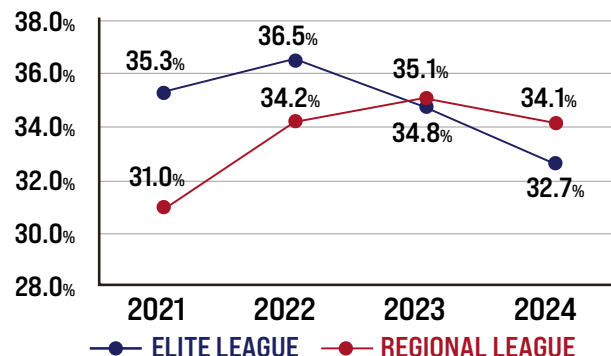
## TOV% 推移

1 回のオフェンスでチームがターンオーバーをする確率  
 $\text{ターンオーバー} \div (FG \text{ 試投数} + FT \text{ 試投数} \times 0.44 + \text{ターンオーバー})$



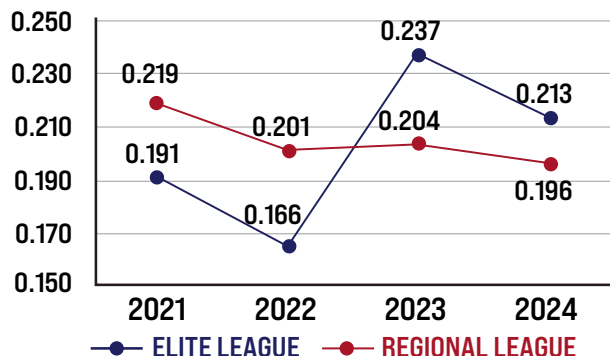
## ORB% 推移

自チームのシュートが外れた際にオフェンスリバウンドを獲得する割合  
 $\text{オフェンスリバウンド} \div (\text{オフェンスリバウンド} + \text{相手ディフェンスリバウンド})$



## FTR 推移

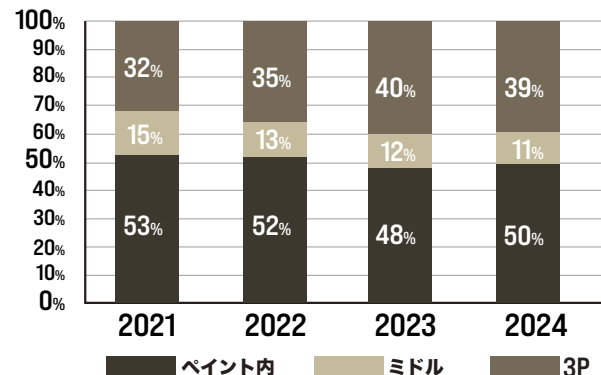
オフェンス時にフリースローを獲得する頻度  
 $FT \text{ 試投数} \div FG \text{ 試投数}$



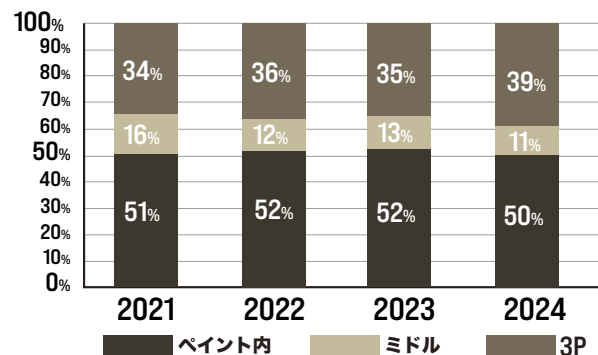
4 シーズン間での FOUR FACTORS の推移を見ると、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE、B.LEAGUE U18 REGIONAL LEAGUE 間で複数シーズンに渡って極端に逆の推移を取るような項目はなかった。B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE は B.LEAGUE U18 REGIONAL LEAGUE の上位チームが進出する大会だが、両者の間で FOUR FACTORS の推移に極端な乖離がないということは、B.LEAGUE ユース全体で上位チームから下位チームまである程度一定のスタイルが浸透していることを示唆している。

両大会共に、2024-25 シーズンにおいて、eFG%, ORB%, FTR は前シーズンから低下しており、全体的によりディフェンシブな傾向となっていた。また、ORB% については両大会共に全シーズンにおいて、B.LEAGUE のトップチーム (B1) の 2024-25 シーズンの平均値を上回っている。B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE は減少傾向ではあるものの、オフェンスリバウンドを取る割合が高い点は、B.LEAGUE ユースの特徴の 1 つと言えるだろう。

## 試投エリア分布推移 ELITE LEAGUE

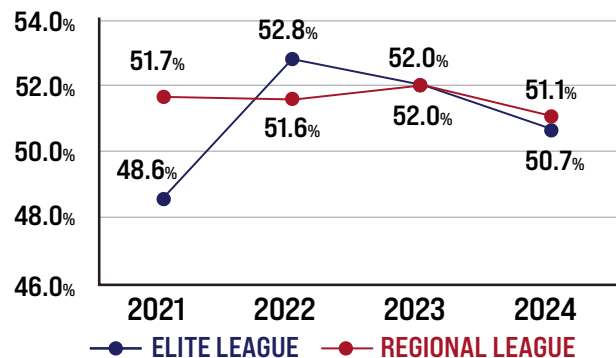


## 試投エリア分布推移 REGIONAL LEAGUE

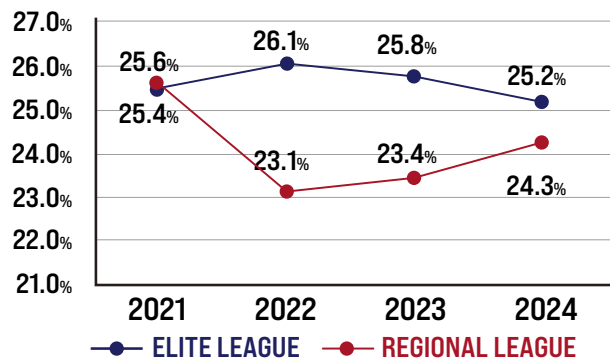


シュート試投エリアの分布の推移を見ると、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE、B.LEAGUE U18 REGIONAL LEAGUE 共にミドルシュートの割合が減少し、3P シュートの割合が増加しているという点は共通しており、同様の傾向は B.LEAGUE のトップチームにおいても見られている。B.LEAGUE ユースが B.LEAGUE のトップチームで必要となる経験を積むための舞台であることを考慮すると、両者が同じ傾向を見せていることは好ましい状況だと言えるだろう。

## ペイント内成功率推移

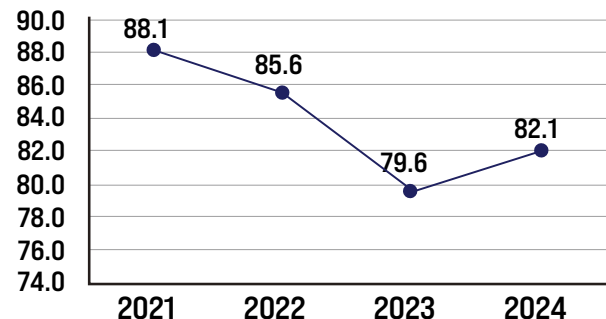


## 3P シュート成功率推移

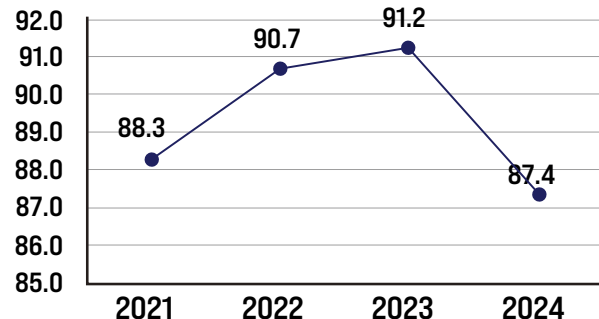


一方で、ペイント内シュートの成功率を見ると、2022-23 シーズンの B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 以外では両大会共に大きな伸びは見られない。3P シュート成功率については 2022-23 シーズン以降、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE で若干の低下傾向、B.LEAGUE U18 REGIONAL LEAGUE で若干の上昇傾向となっている。3P シュートの試投割合を年々増やしている中、今後シュート効率を高めていくためには、3P シュート成功率の向上は課題となりそう。3P シュートの精度を高め、ディフェンスをアウトサイドに引き出すことができれば、ペイント内の成功率もさらに向上が期待できるだろう。

## PACE 推移



## オフensiブレーティング推移

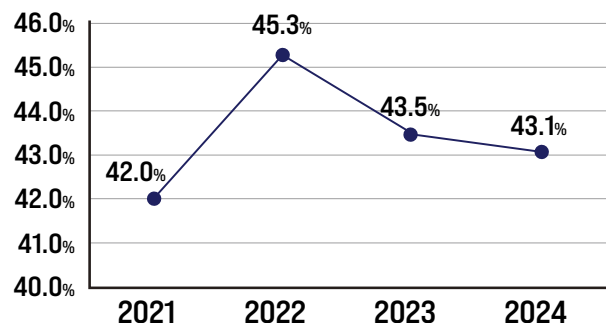


B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE における PACE の推移を見ると、2021-22 シーズンが最高値で、以降は 79~86 の範囲を推移している。B.LEAGUE のトップチームでは PACE は 72~74 の範囲で推移しており、これと比較するとかなりハイペースでオフェンスが展開されており、速い展開は B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE の特徴の 1 つと言えるかもしれない。

一方で、オフensiブレーティング (ORTG) の推移は PACE と完全に逆の推移をたどっており、PACE が高いシーズン程、ORTG が低いという関係性となっている。ハイペースなオフェンスを展開する中で、よりオフェンスの精度を高めることができるかが今後の課題となるだろう。ORTG 程ではないが、EF% も PACE とは逆の推移をたどる傾向は見られ、TOV% については PACE とは関連性のないような推移を見せている。オフェンスのペースが上がることでターンオーバーが増える傾向は見られないが、シュート精度は低下する傾向にあるという状況で、速い展開の中でシュートを確率良く決められるかが今後の課題と言えそうだ。

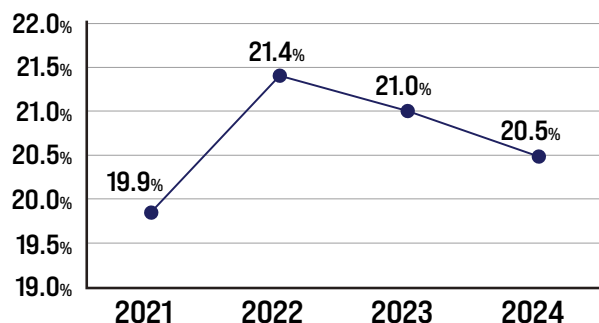
## eFG% 推移

3P シュートに比重 (1.5 倍) をかけて補正したフィールドゴール成功率  
(FG 成功数 + 3P 成功数 × 0.5) ÷ FG 試投数



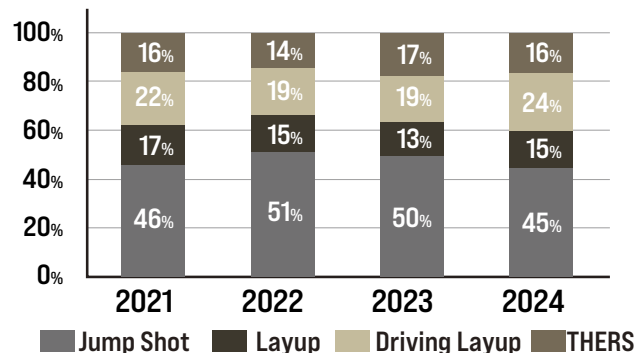
## TOV% 推移

1 回のオフェンスでチームがターンオーバーをする確率  
ターンオーバー ÷ (FG 試投数 + FT 試投数 × 0.44 + ターンオーバー)

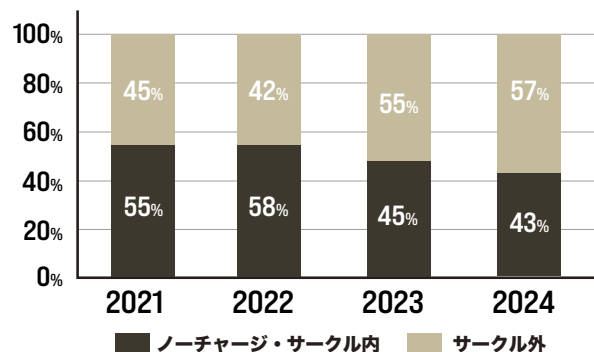




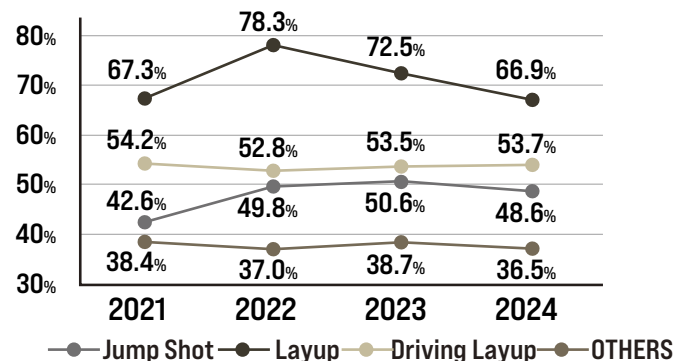
## シュートタイプ別の試投内訳推移



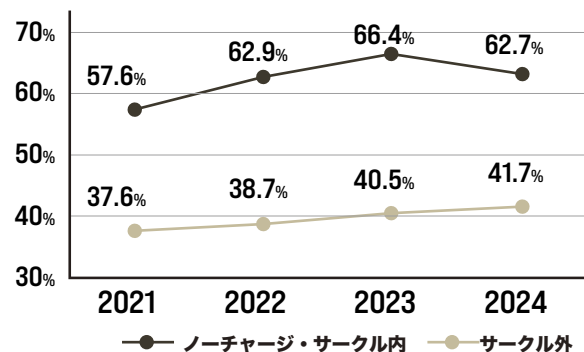
## 試投エリア分布推移



## シュートタイプ別の成功率推移



## エリア別成功率推移



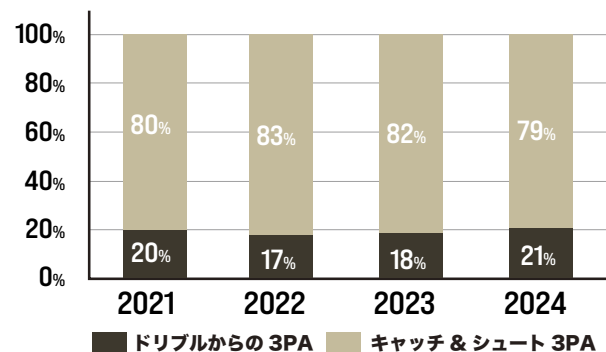
B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE におけるペイント内でのシュートタイプ内訳を見ると、2024-25 シーズンにドライブングレイアップの比率が過去最高となった。ドライブでのペイントアタックはオフェンスを展開するうえで重要な要素であり、ドライブングレイアップが増えていることは好ましい傾向と言えるだろう。成功率については、ドライブ以外でのレイアップの成功率が 2022-23 シーズン以降は低下傾向にあり、2024-25 シーズンはジャンプシュートの成功率も低下している。

ペイント内におけるノーチャージ・サークル内 / 外の内訳では、2022-23 シーズン以降、サークル内での試投割合が減少傾向にある。前述のレイアップ・ジャンプシュートの成功率低下は、ゴール下の深い位置まで入り込めていない点と関連しているかもしれない。一方、サークル外からの成功率は右肩上がりに上昇しており、ロングペイントからシュートを決めるスキルは高まっていると考えられる。ペイント内の成功率全体を高めるためには、より成功率の高いノーチャージ・サークル内での試投数を増やせるかが重要となりそうだ。

# B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 3P シュート推移の分析

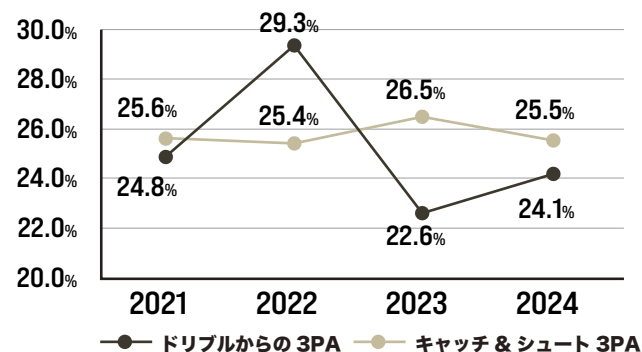
B.LEAGUE ユースの競技力成長の軌跡

## ドリブルからのシュートとキャッチ & シュートの内訳推移



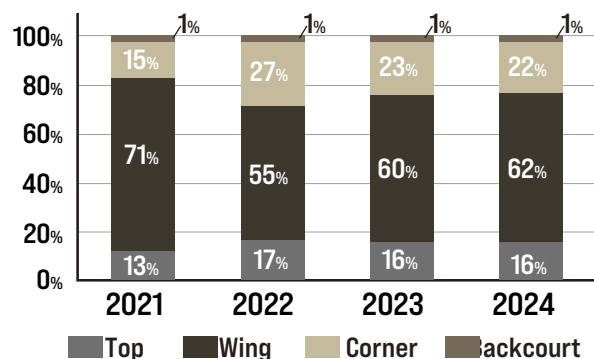
※シュートタイプがプルアップかステップバックの 3P シュートを「ドリブルから」、それ以外のシュートタイプの 3P シュートを「キャッチ&シュート」として集計

## ドリブルからのシュートとキャッチ & シュートの成功率推移

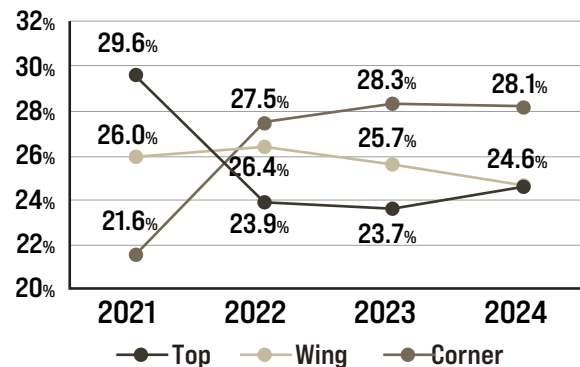


B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE における 3P シュートをドリブルからのシュートとキャッチ&シュートに分けて、試投数の内訳を見ると、2022-23 シーズン以降ドリブルからの 3P シュート割合が徐々に増えてきている。B.LEAGUE のトップチームにおいてもドリブルからのシュートの割合は増えており、B.LEAGUE ユースにおいても同様の傾向が続くのかは注目したいポイントである。成功率については、2022-23 シーズンにドリブルからのシュートが 30% に迫ったが、それ以外のシーズンは 25% 前後を推移している。どちらのシュートの成功率も、今後の向上を期待したい。

## 試投エリア分布推移

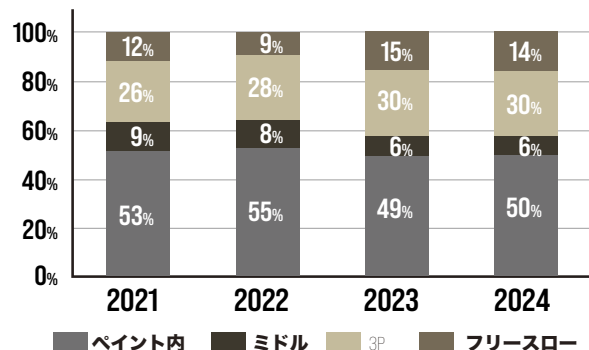


## エリア別成功率推移

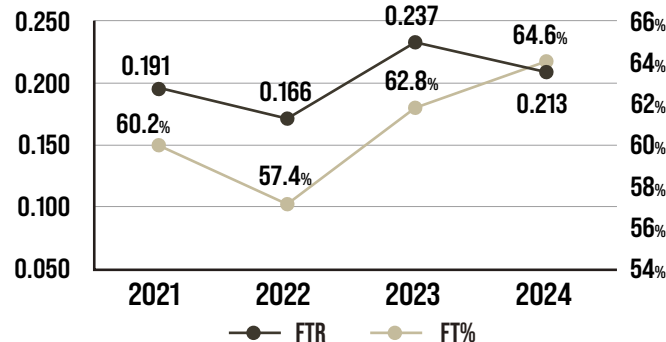


3P シュートの試投エリアの分布の推移を見ると、ウイングとコーナーの変動が大きく、2022-23 シーズン以降はコーナーが 20% 以上を占めるようになった。成功率は 2022-23 シーズンにコーナーからの成功率が大きく上がり、以降、コーナーの成功率が 3 エリアの中で最も高いという状態が続いている。コーナースリーは戦略的に重要な役割を果たすシュートだが、このシュートが一定の確率で決まっているという点はポジティブに捉えて良いのではないだろうか。

## 得点内訳推移

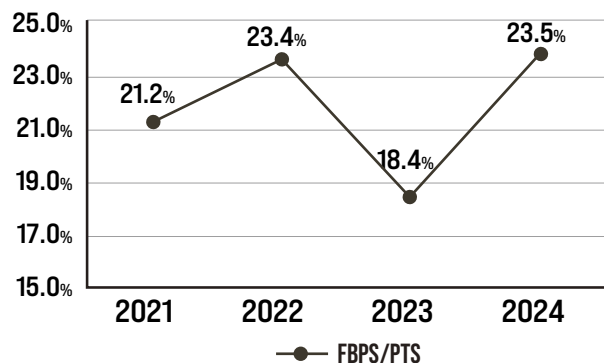


## フリースロー獲得率と成功率推移

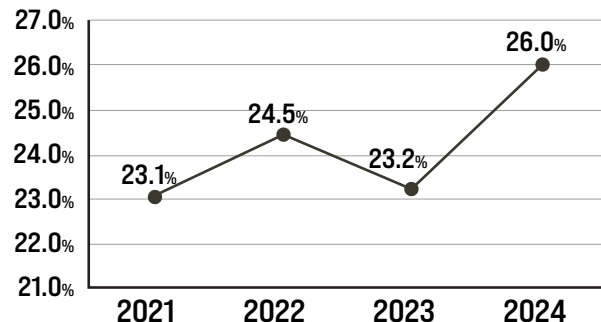


B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE における得点内訳の推移を見ると、2023-24 シーズンからフリースローによる得点の割合が増加している。フリースローの獲得率と成功率を見ると、どちらも 2023-24 シーズンに大幅に上昇しており、フリースロー獲得が増え、これを以前よりも高い確率で決めたことで得点に占める割合が増加したと考えられる。2024-25 シーズンは獲得率は低下したが、成功率は向上を続けており、この成功率がどこまで上昇を続けるかは今後注目したいポイントだ。

## 総得点に占めるファストブレイクポイント割合推移

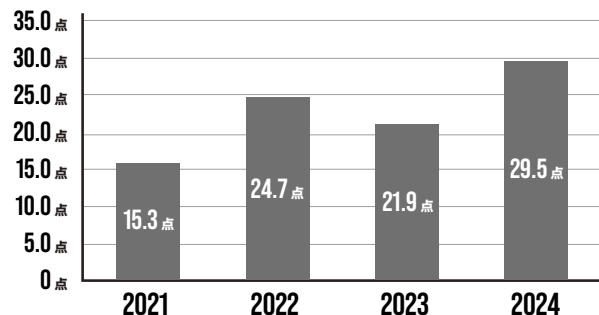


## 総得点に占めるポイントオフターンオーバー割合推移

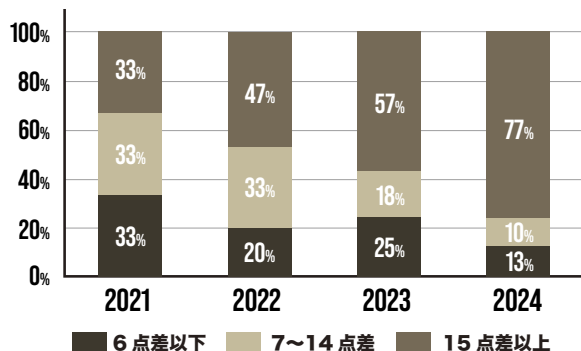


次に、総得点に占めるファストブレイクポイントとポイントオフターンオーバーの割合の推移を見ると、2023-24 シーズンは共に割合は低かったが、2024-25 シーズンには両項目共に 4 年間で最高値となった。2024-25 シーズンは相手のターンオーバーからの速攻で得点を決める割合が高かったと考えられるが、FOUR FACTORS のページに記載の通り、2024-25 シーズンがディフェンシブな傾向が強かったことも関連しているかもしれない。B.LEAGUE ユースにおいて今後ディフェンスから走るスタイルがさらに定着していくのか注目していきたい。

## 平均点差推移



## 点差分布の推移



B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE で接戦の割合が増えているかを検証するため、平均点差の推移を見ると、2023-24 シーズンに一度小さくなったものの、全体的には概ね右肩上がりに大きくなっている。点差の分布を見ても、15 点差以上の大差の試合の割合が年々増加しており、接戦は少なくなっていると言える結果となった。これは、クラブ間の実力差が大きくなっていることを示唆する結果とも考えられる。

特に、2024-25 シーズンにおいては、名古屋 D U18、SR 渋谷 U18 といった 2021-22 シーズンから B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE に出場しているチームが得失点差で大きなプラスを記録している。複数年に渡って継続的に B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE に出場することで、実力をつけてきたと言えるかもしれない。一方で 2023-24 シーズンからの出場ながら、2024-25 シーズンには得失点差で大きくプラスとなった千葉 J U18 のようなチームもあり、今後こういったチームも増えてくる可能性も考えられる。



# B.LEAGUE ユースの現状の競技力


本項では、インフロニア B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 2024 のスタッツを集計し、出場した 12 チームの比較分析を行った。強豪チームの特徴や、各チームの現在地を知り、現状の競技力を図ることを目的としている。

集計の対象としたのは、インフロニア B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 2024 で、2 地区制で行われた合計 30 試合（各チーム 5 試合）である。そのため、比較分析は 2 地区に分けて行った。

# B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 2024 チーム分析 順位表

B.LEAGUE ユースの現状の競技力

## 東地区 EASTERN CONFERENCE

RANKING	TEAM	W	L
1	 <b>千葉ジェッツ U18</b> CHIBA JETS U18	5	0
2	 <b>サンロッカーズ渋谷 U18</b> SUNROCKERS SHIBUYA U18	3	2
3	 <b>レバンガ北海道 U18</b> LEVANGA HOKKAIDO U18	3	2
4	 <b>宇都宮ブレックス U18</b> UTSUNOMIYA BREX U18	3	2
5	 <b>仙台89ERS U18</b> SENDAI 89ERS U18	1	4
6	 <b>横浜エクセレンス U18</b> YOKOHAMA EXCELLENCE U18	0	5

## 西地区 WESTERN CONFERENCE

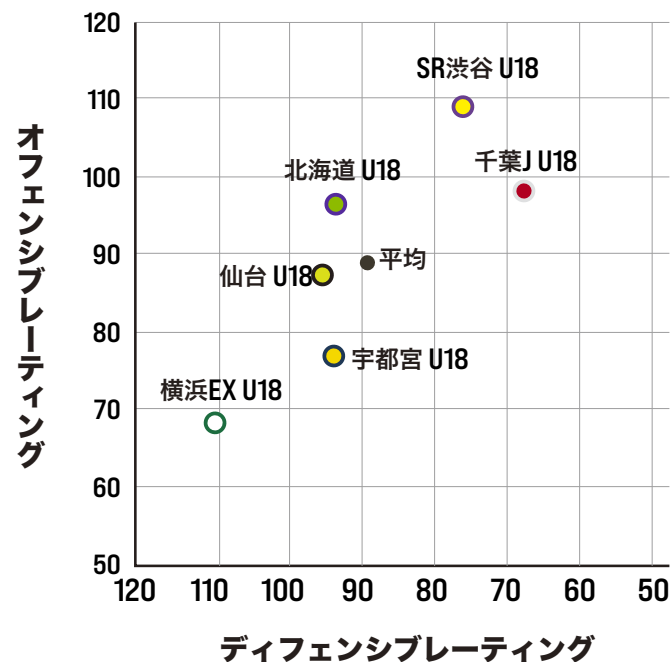
TEAM	W	L
 <b>名古屋ダイヤモンドドルフィンズU18</b> NAGOYA DIAMOND DOLPHINS U18	5	0
 <b>琉球ゴールデンキングス U18</b> RYUKYU GOLDEN KINGS U18	4	1
 <b>滋賀レイクス U18</b> SHIGA LAKES U18	3	2
 <b>ファイティングイーグルス名古屋U18</b> FIGHTING EAGLES NAGOYA U18	2	3
 <b>富山グラウジーズ U18</b> TOYAMA GROUGES U18	1	4
 <b>熊本ヴォルターズ U18</b> KUMAMOTO VOLTERS U18	0	5

# B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 2024 チーム分析 攻守の総合力

B.LEAGUE ユースの現状の競技力

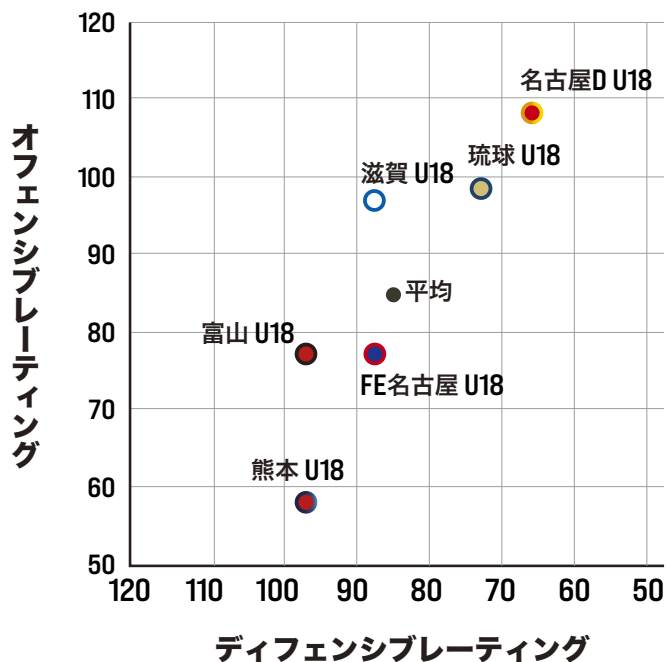
## 東地区

オフENSEブレイティングと  
ディフェンシブレイティングの散布図



## 西地区

オフENSEブレイティングと  
ディフェンシブレイティングの散布図



この図は縦軸がオフENSEス力を、横軸がディフェンシブス力を示しており、上に位置するほどオフENSEス力が高く、右に位置するほどディフェンシブス力が高いことを表している。

東地区で最もオフENSEス力が高かったのは SR 渋谷 U18 で、オフENSEブレイティングは 108.0。これは両地区を通じてトップだった。ディフェンシブス力が最も高かったのは千葉 J U18 で、西地区の名古屋 D U18 の数字には届かなかったものの、ディフェンシブレイティングは 68.6 を記録した。

一方、西地区はオフENSE・ディフェンシブともに名古屋 D U18 がトップを記録。オフENSEブレイティングとディフェンシブレイティングの差分であるネットレイティングは 42.6 で、これは両地区を通じて最高値。攻守両面において高い総合力を備えたチームだと言える。

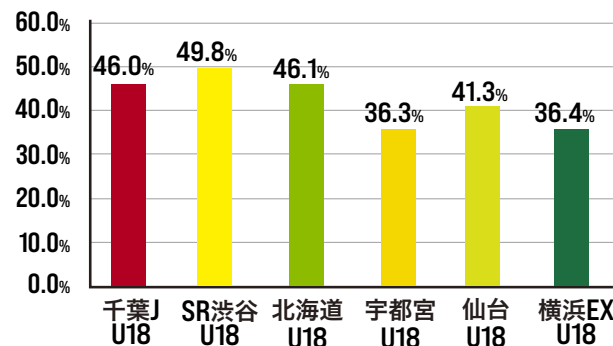
また、オフENSEブレイティングの地区平均を見ると、東地区が 89.3、西地区が 85.3 であり、東地区はよりオフENSEシブ、西地区はよりディフェンシブだったことがうかがえる。

# B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 2024 チーム分析 FOUR FACTORS 東地区

B.LEAGUE ユースの現状の競技力

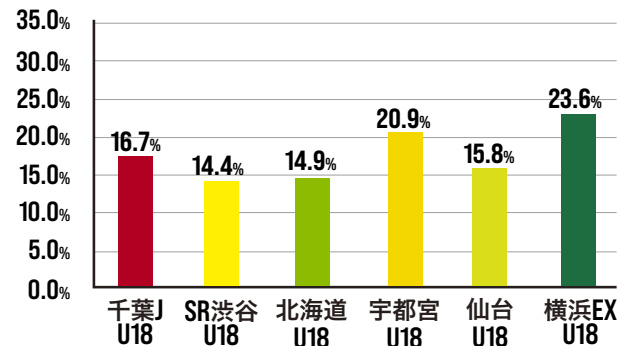
## eFG%

3P シュートに比重 (1.5 倍) をかけて補正したフィールドゴール成功率  
(FG 成功数 + 3P 成功数 × 0.5) ÷ FG 試投数



## TOV%

1 回のオフェンスでチームがターンオーバーをする確率  
ターンオーバー ÷ (FG 試投数 + FT 試投数 × 0.44 + ターンオーバー)



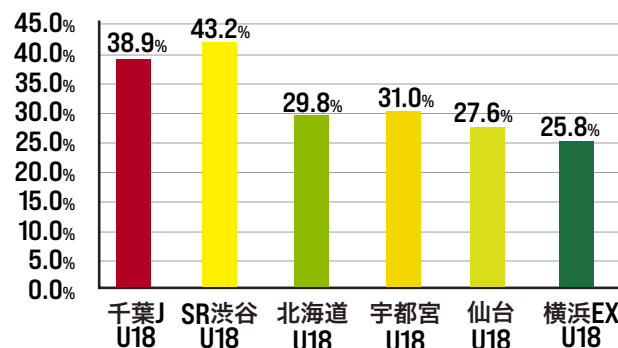
東地区優勝の千葉 J U18 は、1 位の項目こそなかったものの、EFG%、ORB%、FTR のいずれも地区トップスリーに入る高水準を記録した。

SR 渋谷 U18 は、EFG%、TOV%、ORB% の 3 項目で地区トップを記録。ミスを抑え、効率の良いショットをつくり、セカンドチャンスで繋ぐ理想的なオフェンスを展開していたと言える。

宇都宮 U18 は、FTR で両地区を通じてトップを記録。フリースロー獲得率の高さから、コンタクトをいとわないそのフィジカルな戦いぶりが見て取れる。

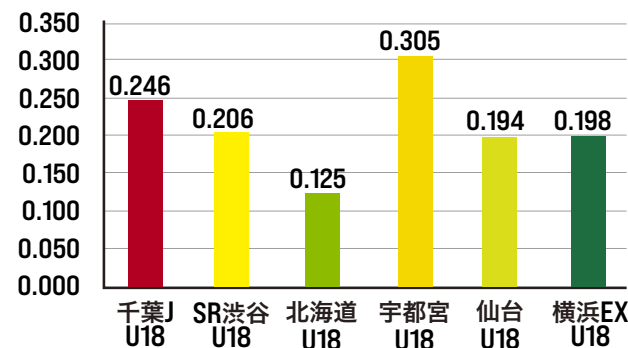
## ORB%

自チームのシュートが外れた際にオフェンスリバウンドを獲得する割合  
オフェンスリバウンド ÷ (オフェンスリバウンド + 相手ディフェンスリバウンド)



## FTR

オフェンス時にフリースローを獲得する頻度  
FT 試投数 ÷ FG 試投数



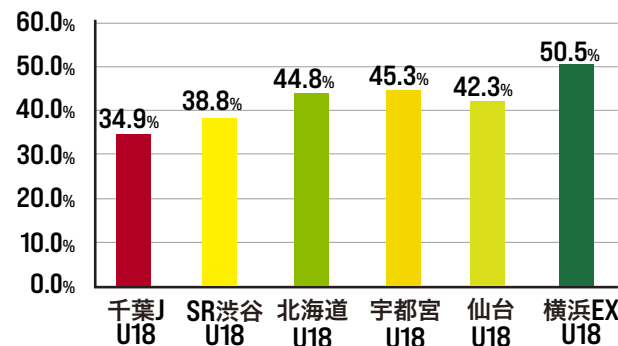


# B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 2024 チーム分析 OPP FOUR FACTORS 東地区

B.LEAGUE ユースの現状の競技力

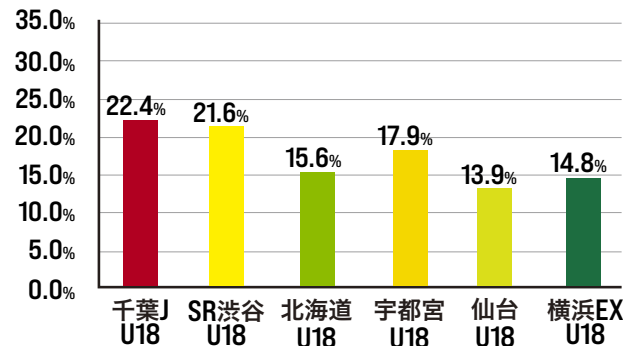
## OPP eFG%

3P シュートに比重 (1.5 倍) をかけて補正した相手チームのフィールドゴール成功率  
(相手 FG 成功数 + 相手 3P 成功数 × 0.5) ÷ 相手 FG 試投数



## OPP TOV%

1 回のオフェンスで相手チームがターンオーバーをする確率  
相手ターンオーバー ÷ (相手 FG 試投数 + 相手 FT 試投数 × 0.44 + 相手オフェンスリバウンド + 相手ターンオーバー)

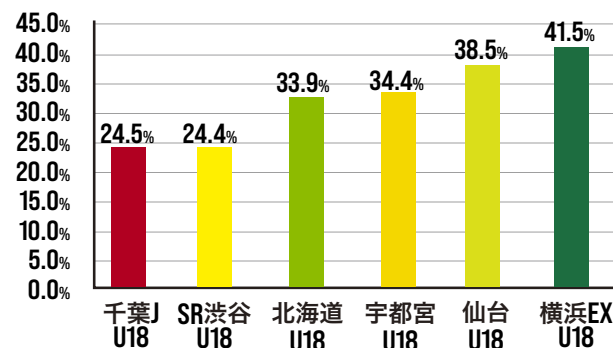


千葉 JU18 は OPP TOV% で地区最高を記録。強度の高いディフェンスで相手のターンオーバーを誘発し得点を重ねるスタイルで、東地区優勝を果たした。前述の得点力もさることながら、高いディフェンス力も優勝の大きな要因の一つと言えるだろう。

グラフは左から最終順位が高い順に並べているが、東地区では OPP eFG% と OPP ORB% に右肩上がりの傾向が見て取れる。これはすなわち、相手のシュートを落とさせ、ディフェンスリバウンドを確実に確保できるチームが、東地区で優位に立っていたことを示している。

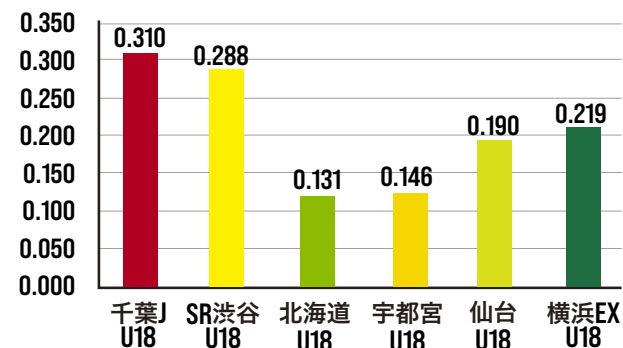
## OPP ORB%

相手チームのシュートが外れた際にオフェンスリバウンドを相手チームに獲得される割合  
相手オフェンスリバウンド ÷ (相手オフェンスリバウンド + ディフェンスリバウンド)



## OPP FTR

ディフェンス時に相手チームにフリースローを与える頻度  
相手 FT 試投数 ÷ 相手 FG 試投数

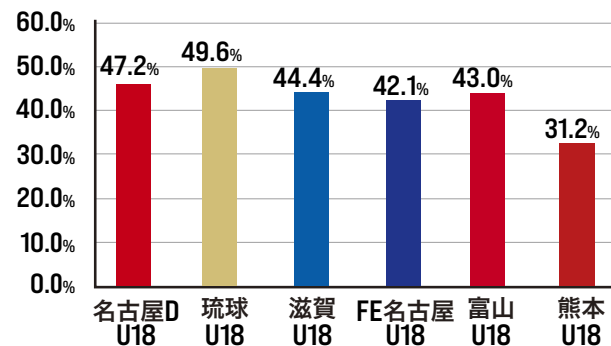


# B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 2024 チーム分析 FOUR FACTORS 西地区

B.LEAGUE ユースの現状の競技力

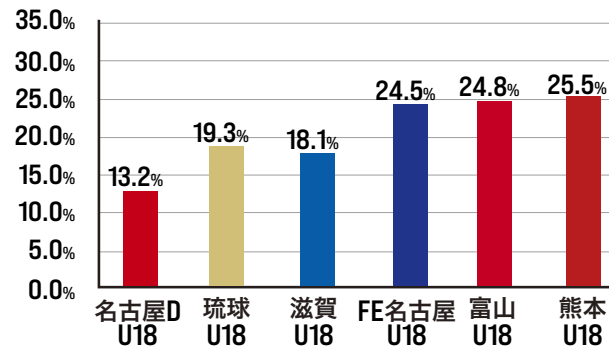
## eFG%

3P シュートに比重 (1.5 倍) をかけて補正したフィールドゴール成功率  
 $(FG \text{ 成功数} + 3P \text{ 成功数} \times 0.5) \div FG \text{ 試投数}$



## TOV%

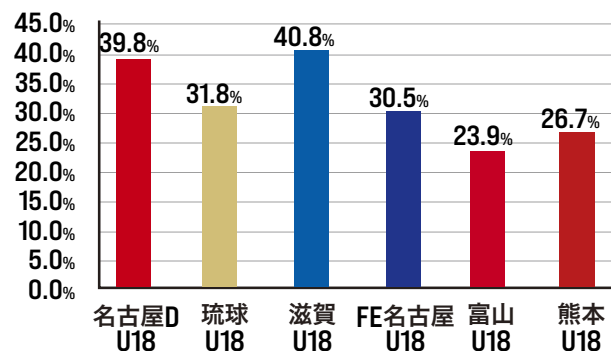
1 回のオフェンスでチームがターンオーバーをする確率  
 $\text{ターンオーバー} \div (FG \text{ 試投数} + FT \text{ 試投数} \times 0.44 + \text{ターンオーバー})$



西地区は、東地区に比べて TOV% が高い傾向にあったが、その中で名古屋 D U18 は両地区を通じて最も低い TOV% を記録し、ミスの少ない安定したオフェンスを展開していた。

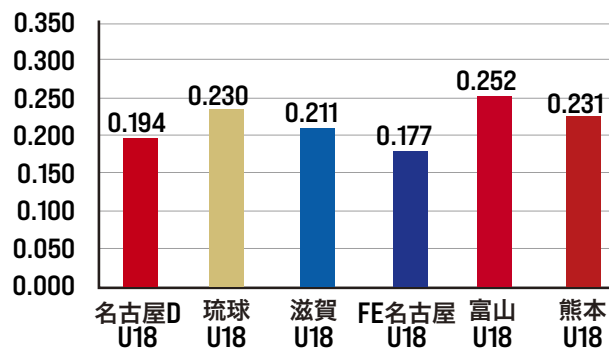
## ORB%

自チームのシュートが外れた際にオフェンスリバウンドを獲得する割合  
 $\text{オフェンスリバウンド} \div (\text{オフェンスリバウンド} + \text{相手ディフェンスリバウンド})$



## FTR

オフェンス時にフリースローを獲得する頻度  
 $FT \text{ 試投数} \div FG \text{ 試投数}$



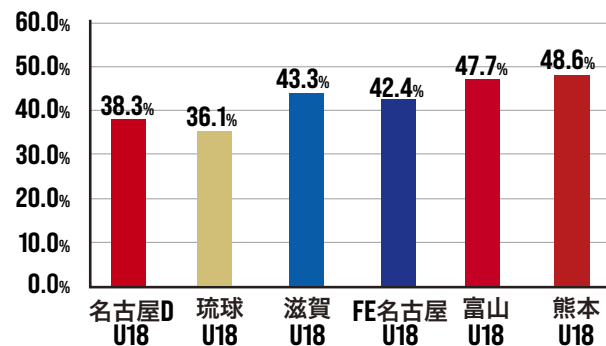
EFG% は琉球 U18、TOV% は名古屋 D U18、ORB% は滋賀 U18、FTR は富山 U18 が地区トップを記録。1つのチームが 3 項目でトップを記録した東地区と比べて、西地区では多様なスタイル同士がぶつかり、各チームが特徴を発揮する試合が多かったことがうかがえる。

# B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 2024 チーム分析 OPP FOUR FACTORS 西地区

B.LEAGUE ユースの現状の競技力

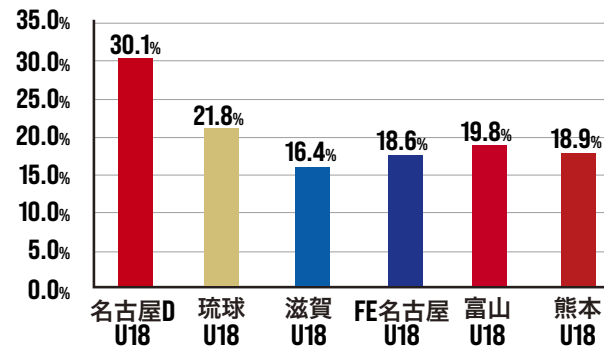
## OPP eFG%

3P シュートに比重 (1.5 倍) をかけて補正した相手チームのフィールドゴール成功率  
(相手 FG 成功数 + 相手 3P 成功数 × 0.5) ÷ 相手 FG 試投数



## OPP TOV%

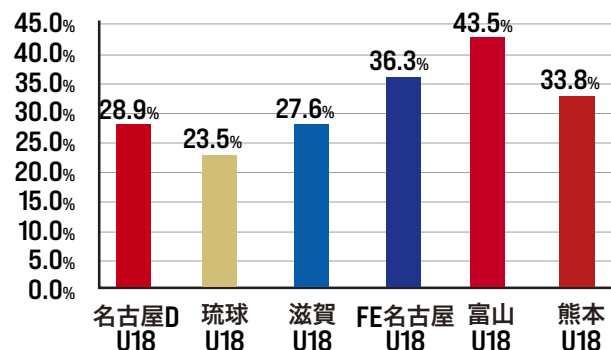
1 回のオフェンスで相手チームがターンオーバーをする確率  
相手ターンオーバー ÷ (相手 FG 試投数 + 相手 FT 試投数 × 0.44 + 相手オフェンスリバウンド + 相手ターンオーバー)



本項で何よりも目立っているのは、名古屋 D U18 の OPP TOV% である。大会平均の 19.2% に対し、名古屋 D U18 は 30.1% という驚異的なターンオーバー誘発率を記録した。最も多い試合では、37 回ものターンオーバーを奪い、相手にシュートすら打たせないディフェンスを見せた。西地区の TOV% が東地区に比べて高かった背景には、彼らのディフェンスの影響も少なくないと考えられる。

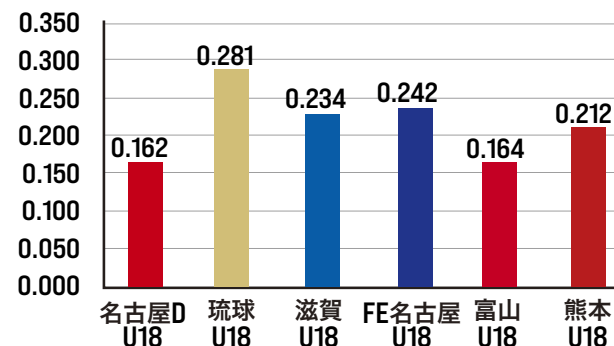
## OPP ORB%

相手チームのシュートが外れた際にオフェンスリバウンドを相手チームに獲得される割合  
相手オフェンスリバウンド ÷ (相手オフェンスリバウンド + ディフェンスリバウンド)



## OPP FTR

ディフェンス時に相手チームにフリースローを与える頻度  
相手 FT 試投数 ÷ 相手 FG 試投数

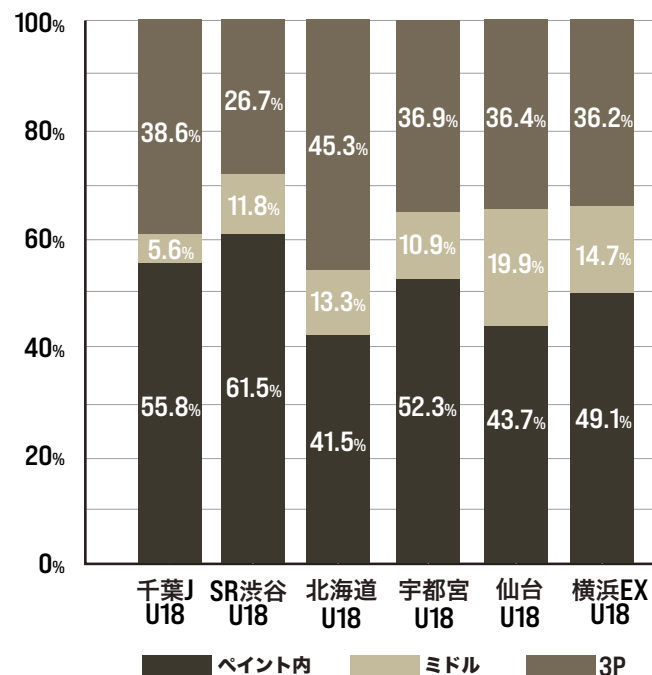


琉球 U18 は、OPP EFG% と OPP ORB% で地区トップを記録。相手のシュートを落とさせて、ディフェンスリバウンドを取り切る堅実なディフェンスで西地区準優勝を果たした。

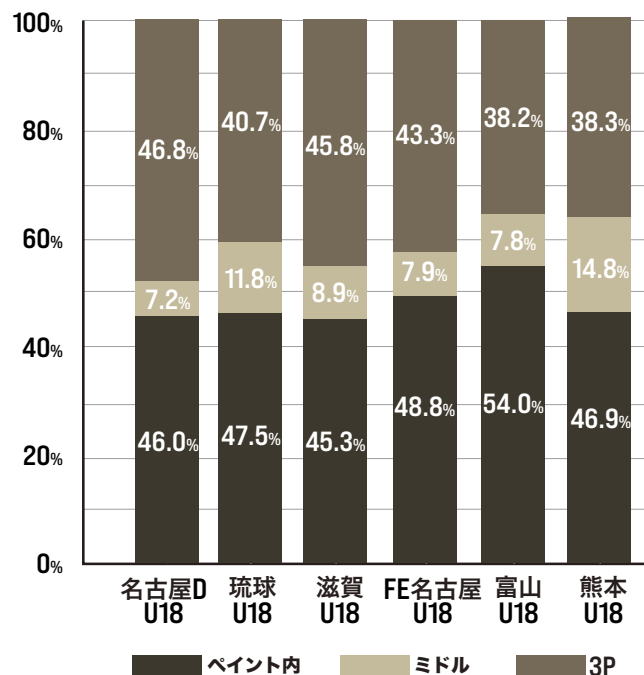
# B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 2024 チーム分析 試投エリア分布比較

B.LEAGUE ユースの現状の競技力

## 東地区 試投エリア分布比較



## 西地区 試投エリア分布比較



ペイント内の試投割合を見ると、SR 渋谷 U18 が大会で唯一 60% を超えており、ペイントアタックからフィニッシュまで持ち込む能力に長けたチームだと言える。

なお、3P シュートの試投割合では西地区が名古屋 D U18 を筆頭に 4 チームが 40% を超えている一方、東地区では上位の千葉 J U18 や SR 渋谷 U18 を含めて 5 チームが 30% 台に留まるなどチームごとに数値のばらつきがみられることから、大会全体としては 3P シュート中心の戦術傾向は顕著ではなかった。

また両地区ともに、ミドルシュートの割合が最も低いチームが地区を制していることから、効率の悪いミドルを避け、確率の高いペイント内のシュートや状況を選んだ 3P シュートに絞るショットセクションが、勝利に直結していたと考えられる。

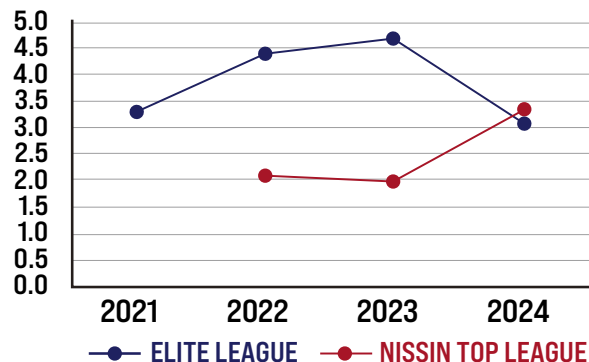


# U18 日清食品トップリーグとの比較

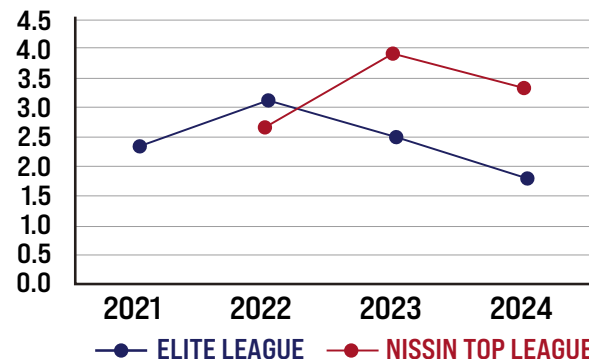
本項では、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE と  
U18 日清食品トップリーグの試合のスタッツを集計し、比較分析を行った。  
両者の比較を通じて、B.LEAGUE ユースの傾向や課題を見出し、  
B.LEAGUE ユースの現在地を確認することを目的としている。

集計の対象としたのは、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE の  
2021 年～2024 年大会の過去 4 大会（合計 88 試合）と、U18 日清食品トップリーグの  
2022 年～2024 年大会の過去 3 大会（合計 84 試合）である。

### 平均リードチェンジ回数推移



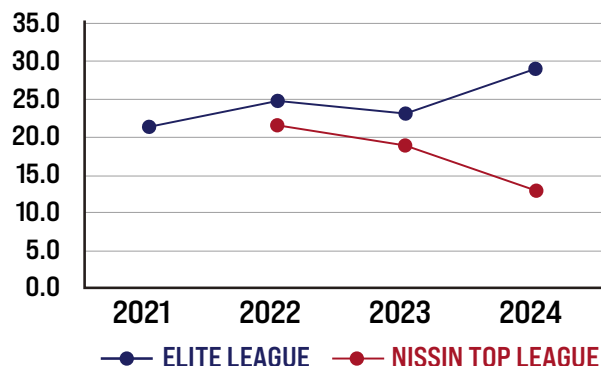
### 平均同点回数推移



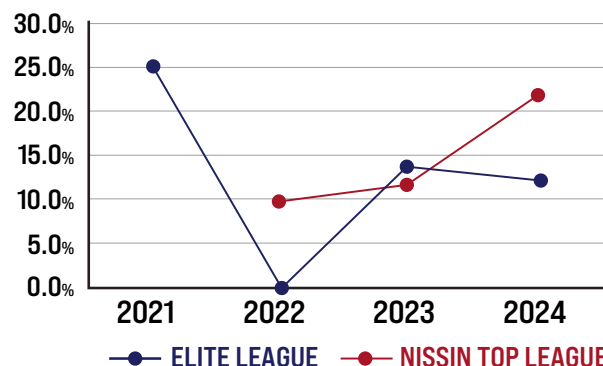
B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE は 2021 年から 2022 年大会にかけて、リードチェンジや同点回数が一時的に増加し、実力の拮抗した大会へと成長を見せた。しかし、チーム数が 8 から 12 へと拡大した 2024 年大会にはいずれも減少。平均点差も 29.5 点と大きく開いた。

一方、U18 日清食品トップリーグは平均点差が年々減少し、2024 年大会には 13.3 点、逆転勝率 21.9%と、接戦・逆転が多い緊張感のある試合が増えていることがうかがえる。

### 平均点差推移



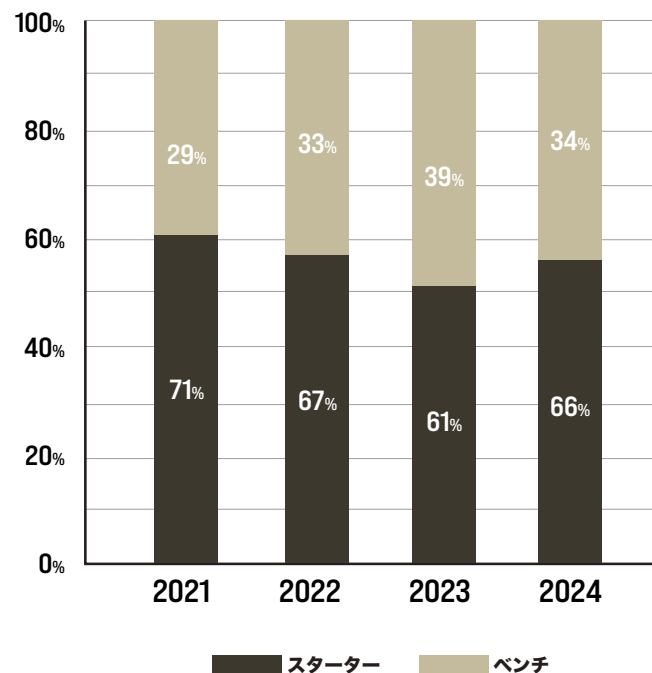
### 10 点差以上ついた試合の逆転勝率推移



B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE は育成機会の提供を重視した大会規模拡大フェーズ特有の実力差の開きが見られる一方、U18 日清食品トップリーグは競り合いを重視した大会の成熟度向上が際立っている。

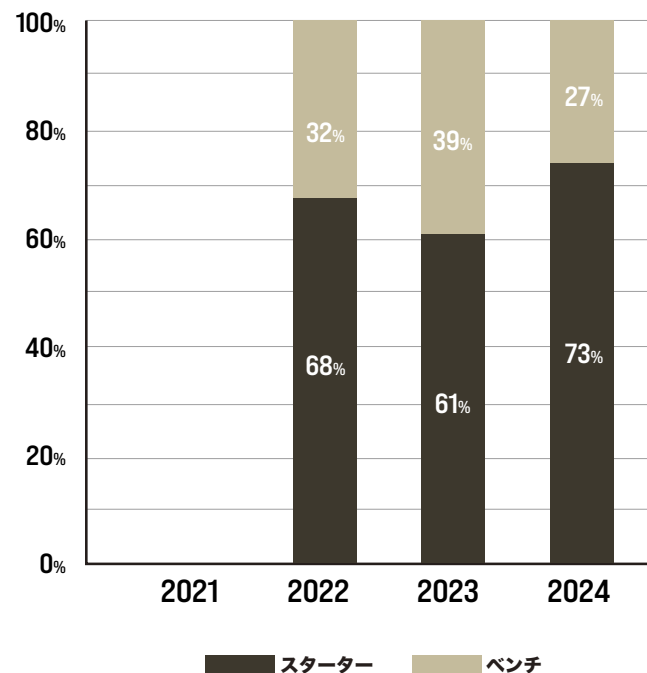
### スターターとベンチのプレイタイム分布推移

#### ELITE LEAGUE



### スターターとベンチのプレイタイム分布推移

#### NISSIN TOP LEAGUE

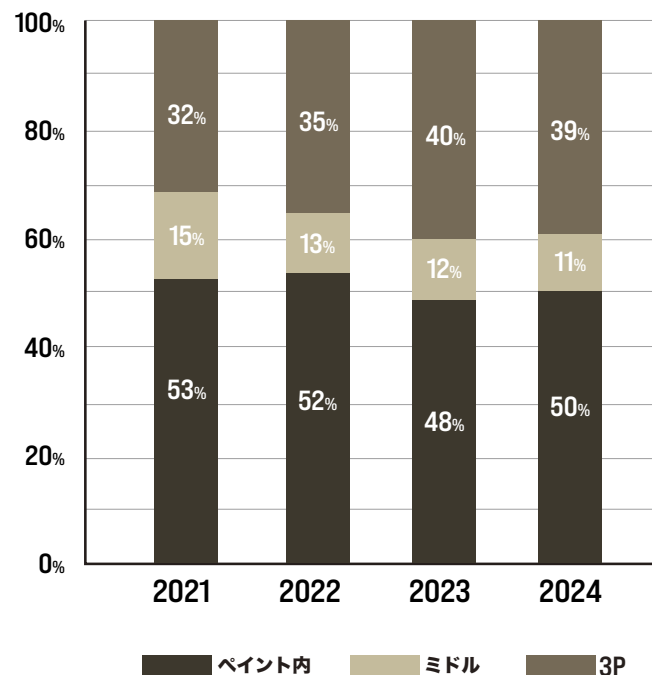


B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE は初シーズンの 2021 年大会こそスターターのプレイタイム割合が 71% と高かったが、2023 年大会には 61% まで減少。年々ベンチメンバーの起用が増え、より多くの選手に出場機会を与えるタイムシェアの傾向が見て取れる。しかし、2024 年大会にはスターターのプレイタイム割合は 66% へ増加し、ややスターター偏重への回帰が見られている。

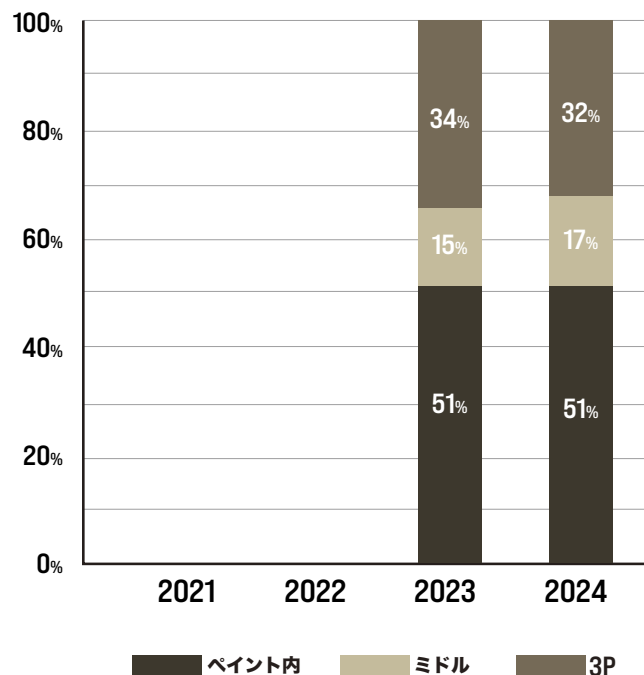
U18 日清食品トップリーグでも 2024 年大会にスターター偏重へ転じる傾向が見て取れたが、特にその上昇度が際立っており、61% から 73% へ 12 ポイントも上昇している。これは接戦の増加に伴い、より主力選手にプレイタイムが集中した可能性が考えられる。

両大会の起用法を比較すると、現時点では B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE はタイムシェアによる育成バランスを重視する傾向を維持し、U18 日清食品トップリーグは相対的に競争性の高い起用法の傾向があるといえる。

### 試投エリア分布推移 ELITE LEAGUE



### 試投エリア分布推移 NISSIN TOP LEAGUE



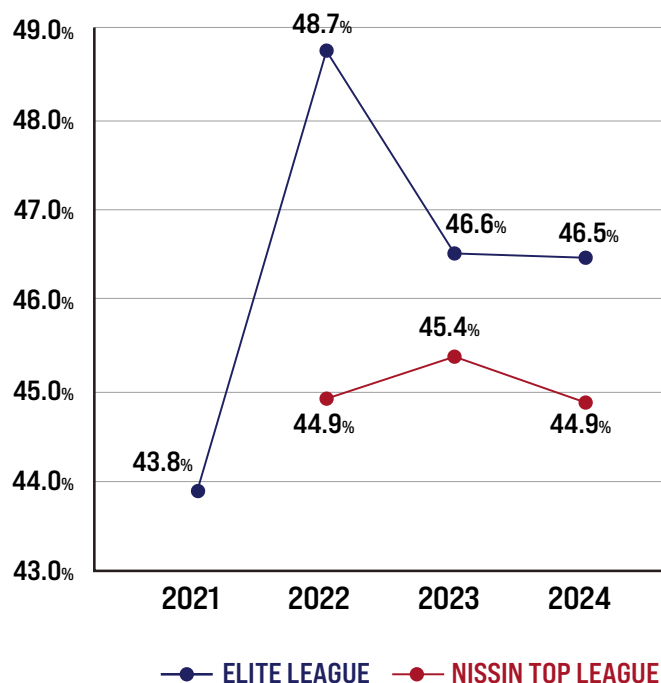
B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE では、2021 年大会から 2024 年大会にかけてミドルの割合が減少 (15%→11%) し、3P の割合が増加 (32%→39%) する傾向が見られる。これは、年々 B.LEAGUE ユースにも効率性を重視した現代バスケのトレンドが浸透していることを示している。

一方で、U18 日清食品トップリーグは 2 年分のデータに限られるために傾向は読みにくいですが、直近の 2024 年大会のミドルの割合が 17% と B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE と比べてかなり高い数値となっていた。接戦が多い大会であったことからミドルが有効なシチュエーションが多かった可能性はあるが、全体として、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE は効率志向、U18 日清食品トップリーグはバランス志向の傾向が強いと言えるだろう。

※U18 日清食品トップリーグ 2022 は 2P シュートの内訳データがないため、対象外とした。

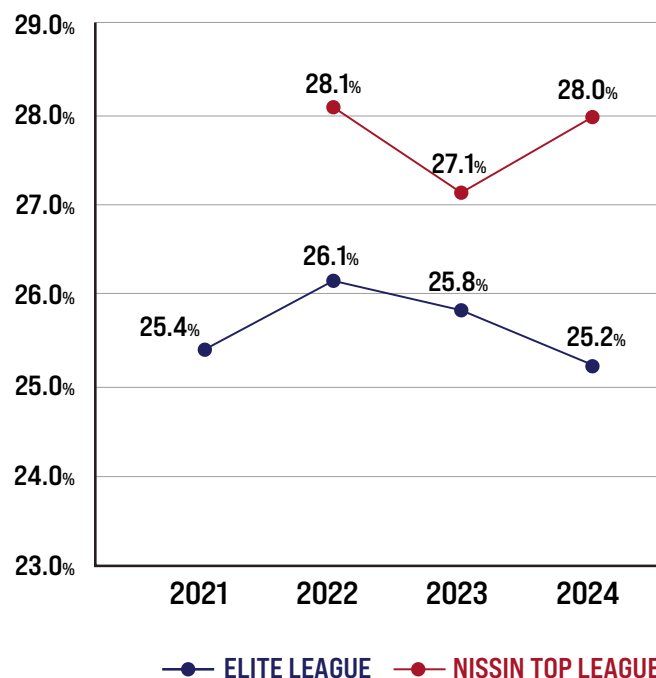
### 2P シュート成功率推移

#### ELITE LEAGUE



### 3P シュート成功率推移

#### NISSIN TOP LEAGUE



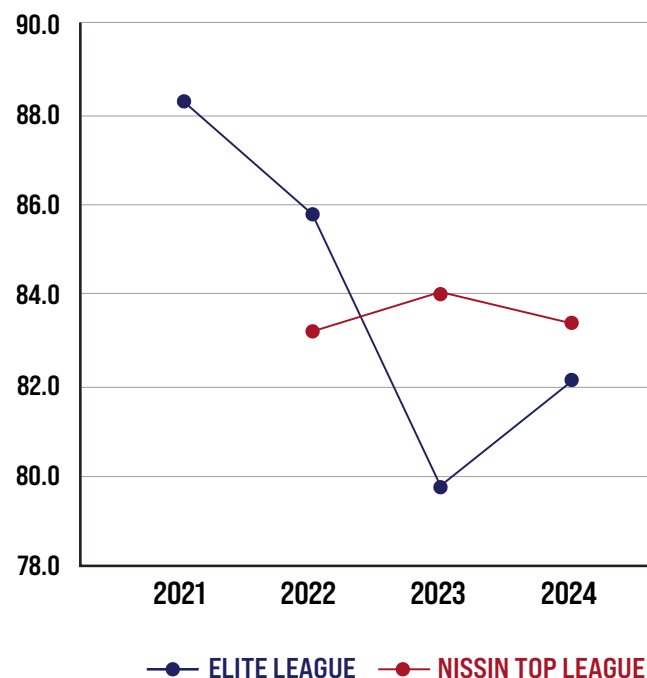
2P シュート成功率は、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE が 2022 年大会以降すべての年で U18 日清食品トップリーグを上回っているが、数値が安定していない点が際立っている一方で、U18 日清食品トップリーグは 45% 前後で安定している。B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE で成功率が安定しない背景として、B.LEAGUE ユースはチーム内でのフィニッシュ力の個人差が大きい可能性があり、それが成功率のばらつきを生んでいるとも考えられる。

一方、3P シュート成功率に注目すると、U18 日清食品トップリーグが常に 2～3 ポイント高い精度を維持している。つまり、U18 日清食品トップリーグでは前述の通り本数こそ控えめではあるものの、より精度の高い 3P シュートを選択する傾向が強く、アウトサイドを決め切るスキルがより備わっていることが窺える。3P シュートに対する「量の重視」と「質の重視」というスタンスの違いが、両者の特徴として浮かび上がっていると言えるだろう。



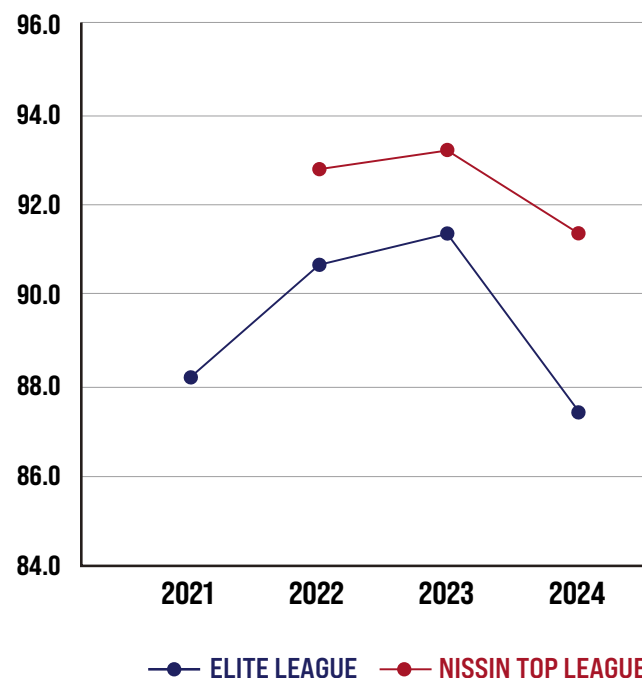
### PACE 推移

#### ELITE LEAGUE



### ORTG 推移

#### NISSIN TOP LEAGUE



U18 日清食品トップリーグは PACE が安定しているのに対し、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE は PACE のアップダウンが大きく安定していない。これはチーム数の増加とともに戦術の多様化が進んだ結果、チームによってそれぞれのスタイルが形成されつつあるとも言える。

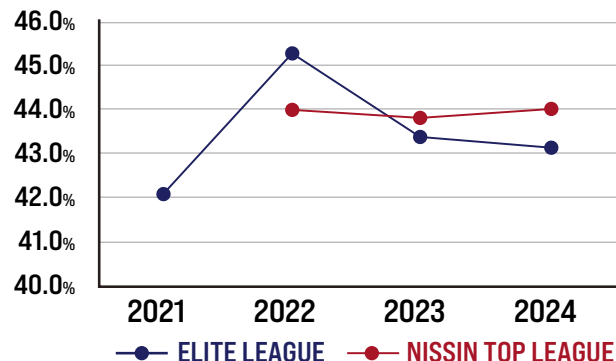
ORTG を両大会で比較すると、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE は 2023 年大会まで上昇を見せたものの、U18 日清食品トップリーグが常にその数値を上回っていた。また、2024 年大会には B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE の ORTG が低下したことで、過去最大の差が開いていた。B.LEAGUE ユースとしては、後述する課題の改善を図り、この差を縮めていきたいところだ。

# B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE / U18 日清食品トップリーグ比較 FOUR FACTORS

U18 日清食品トップリーグとの比較

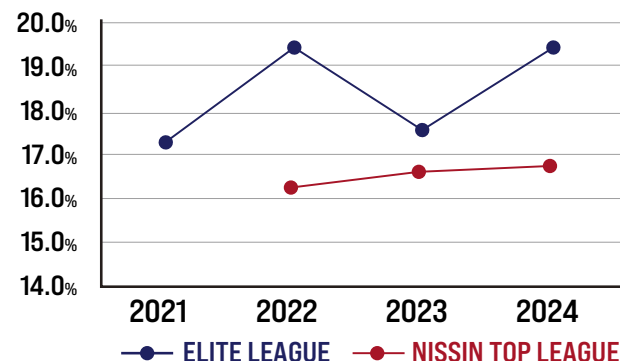
## eFG% 推移

3P シュートに比重 (1.5 倍) をかけて補正したフィールドゴール成功率  
 $(FG \text{ 成功数} + 3P \text{ 成功数} \times 0.5) \div FG \text{ 試投数}$



## TOV% 推移

1 回のオフェンスでチームがターンオーバーをする確率  
 $\text{ターンオーバー} \div (FG \text{ 試投数} + FT \text{ 試投数} \times 0.44 + \text{ターンオーバー})$

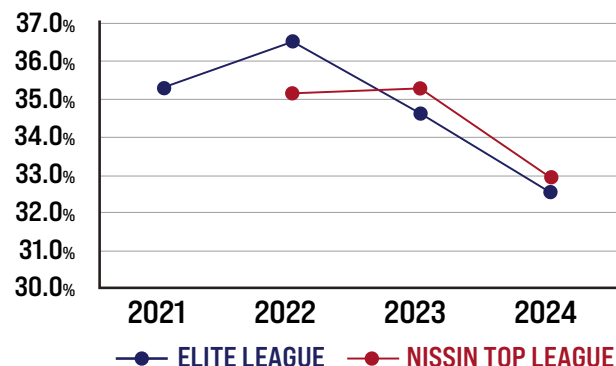


EFG% について、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE はミドルの試投が少なく、理論上、U18 日清食品トップリーグより効率の良いショットを選択しているものの、精度が伴っていないためにシュート効率では U18 日清食品トップリーグを下回っている。このことから、ショットセクションと精度のギャップが B.LEAGUE ユースの課題としてあることが見て取れる。

また、TOV% は B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE が U18 日清食品トップリーグより常に高く、B.LEAGUE ユースの判断の質に課題があることを示唆している。

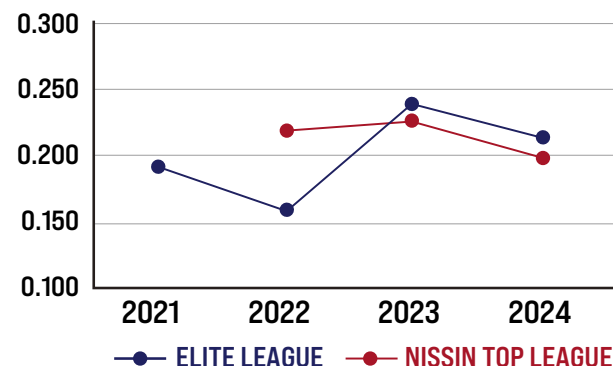
## ORB% 推移

自チームのシュートが外れた際にオフェンスリバウンドを獲得する割合  
 $\text{オフェンスリバウンド} \div (\text{オフェンスリバウンド} + \text{相手ディフェンスリバウンド})$



## FTR 推移

オフェンス時にフリースローを獲得する頻度  
 $FT \text{ 試投数} \div FG \text{ 試投数}$



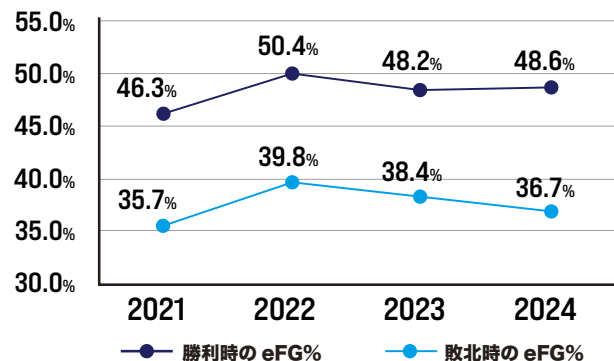
一方、ORB% に大きな差はなく、いずれも減少傾向。逆に見れば、両大会ともオフェンスリバウンドよりディフェンスリバウンドを重視する傾向が見て取れる。

FTR も大きな差はないが、直近 2 大会は両大会で共通の傾向を示しており、ファールを誘発するオフェンスの積極性という点では足並みを揃えていることが分かる。

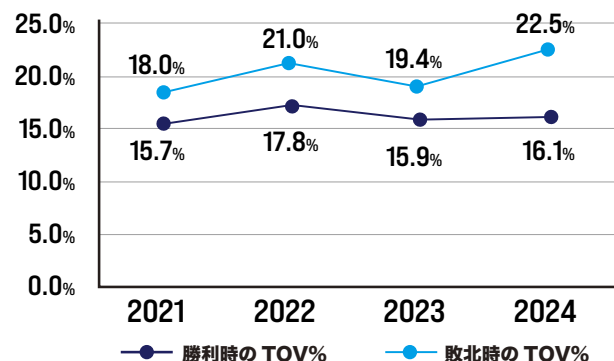
# B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE / U18 日清食品トップリーグ比較 勝敗別 FOUR FACTORS

U18 日清食品トップリーグとの比較

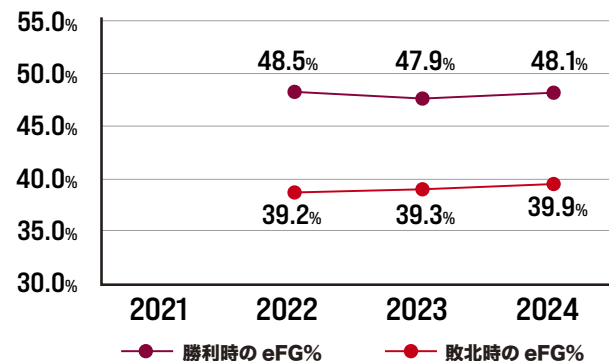
## 勝敗別 eFG% 推移 ELITE LEAGUE



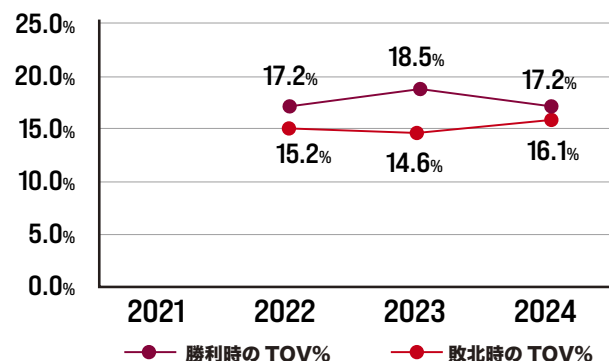
## 勝敗別 TOV% 推移 ELITE LEAGUE



## 勝敗別 eFG% 推移 NISSIN TOP LEAGUE



## 勝敗別 TOV% 推移 NISSIN TOP LEAGUE



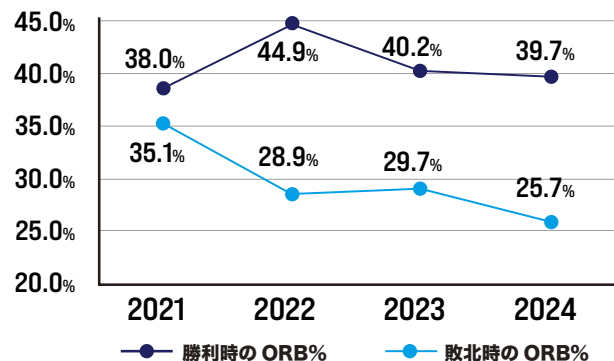
両大会ともにeFG%の勝利時と敗北時の差が8～12ポイントと安定して開いており、いずれもeFG%は勝利に直結する重要な指標だといえるだろう。

TOV%の勝利時と敗北時の差を見ると、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUEでは初シーズンから常に差があり、特に2024年大会は6ポイント以上の差が開いていることから、ターンオーバーを減らすことが勝敗を左右する大きな要素になっている。一方で、U18日清食品トップリーグは2024年大会の差が1ポイントまで縮まっており、これはU18日清食品トップリーグでは比較的ターンオーバーが少なく、多少ミスが増えても試合を壊すほどではない許容範囲に収まっていることが要因だと考えられる。

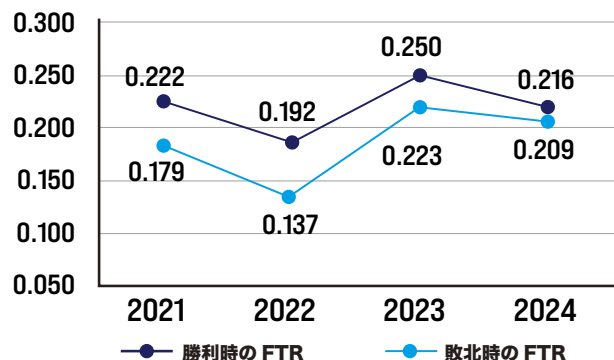
# B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE / U18 日清食品トップリーグ比較 勝敗別 FOUR FACTORS

U18 日清食品トップリーグとの比較

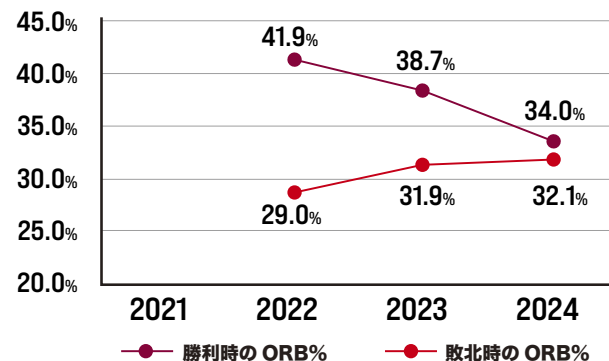
## 勝敗別 ORB% 推移 ELITE LEAGUE



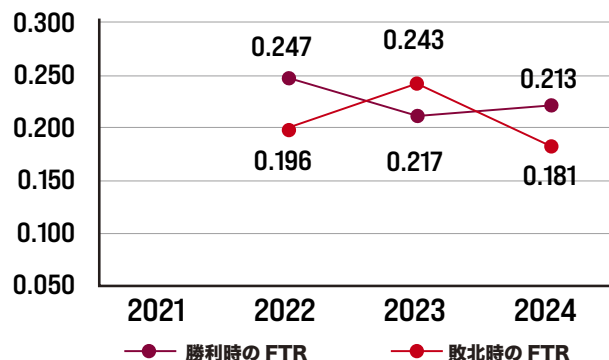
## 勝敗別 FTR 推移 ELITE LEAGUE



## 勝敗別 ORB% 推移 NISSIN TOP LEAGUE



## 勝敗別 FTR 推移 NISSIN TOP LEAGUE



ORB%の勝利時と敗北時の差を見ると、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUEでは初シーズンこそ差は小さかったものの、**2024年大会には14ポイント**もの差が開いており、ORB%が勝敗に与える影響が当初より大きくなっていることがうかがえる。

一方、U18日清食品トップリーグは逆の傾向で、当初よりORB%が勝敗に与える影響が小さくなっている。

また、FTRの勝利時と敗北時の差を見ると、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUEでは2022年大会以降、差は徐々に小さくなっており、直近ではフリースローの獲得が勝敗に直結しているとは言いにくい。

U18日清食品トップリーグは年によっては敗北時の方がFTRが高いケースも見られ、差が出ていても偶然の要素が大きいと考えられる。

## 海外ユースとの比較

本項では、B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP で B.LEAGUE ユースチームと海外ユースチームが対戦した試合のスタッツを集計し、B.LEAGUE ユースと海外ユースのスタッツ比較を行った。両者の比較を通じて、B.LEAGUE ユースの傾向や課題を見出し、B.LEAGUE ユースの現在地を確認することを目的としている。

なお、集計の対象としたのは、  
B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2024、  
インフロニア B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2025  
の2大会で行われた合計15試合である。



# B.LEAGUE ユースと海外ユースの 各種スタッツ比較

海外ユースとの比較

## ベーシックスタッツ比較

区分	G	W	L	勝率	PTS	3PM	3PA	3P%	2PM	2PA	2P%	FTM	FTA	FT%	ORB	DRB	REB	AST	STL	BLK	TOV	PF	POT	2ND PTS	FBPS
B.LEAGUE ユース	15	3	12	.200	73.5	9.5	34.3	27.6%	16.0	39.5	40.5%	13.1	18.9	69.0%	14.1	23.1	37.2	14.4	10.7	1.3	12.5	19.2	19.5	13.1	13.6
海外ユース	15	12	3	.800	85.3	7.9	28.0	28.3%	25.0	42.1	59.4%	11.5	19.5	58.9%	17.6	35.3	52.9	20.8	6.8	3.9	19.7	17.9	13.9	18.6	18.8

## アドバンスドスタッツ比較

区分	ORTG	DRTG	NRTG	eFG%	TOV%	ORB%	FTR	TS%	AST/TO	AST Ratio	AST%
B.LEAGUE ユース	91.3	105.7	-14.4	41.0%	13.2%	28.6%	0.257	44.8%	1.15	17.9	49.5%
海外ユース	105.7	91.3	14.4	52.7%	20.0%	43.3%	0.278	54.2%	1.06	25.8	57.9%

B.LEAGUE ユースチームは海外ユースチームとの対戦において、**3勝12敗**と負け越している。

対戦試合のスタッツの中で、**2P%**、**BLK**、**ORB%**といった項目は海外ユースが大きく上回った。これは海外ユースのサイズ・フィジカルでの優位性が表れた結果と考えられる。

一方、**B.LEAGUE ユース**は**TOV%**では優位に立っており、自分達のターンオーバーは少なく抑えながら、海外ユースから多くのターンオーバーを誘発できている。

ただ、**FBPS**は海外ユースが上回っており、相手のターンオーバーから速攻での得点につなげるという点は**B.LEAGUE ユース**の今後の課題と言えそうだ。

加えて、**AST**、**AST Ratio**、**AST%**の項目で海外ユースが上回っており、**B.LEAGUE ユース**の方がアシストからの得点が少なく、個人技での得点を強いられる状況が多かったことが表れている。

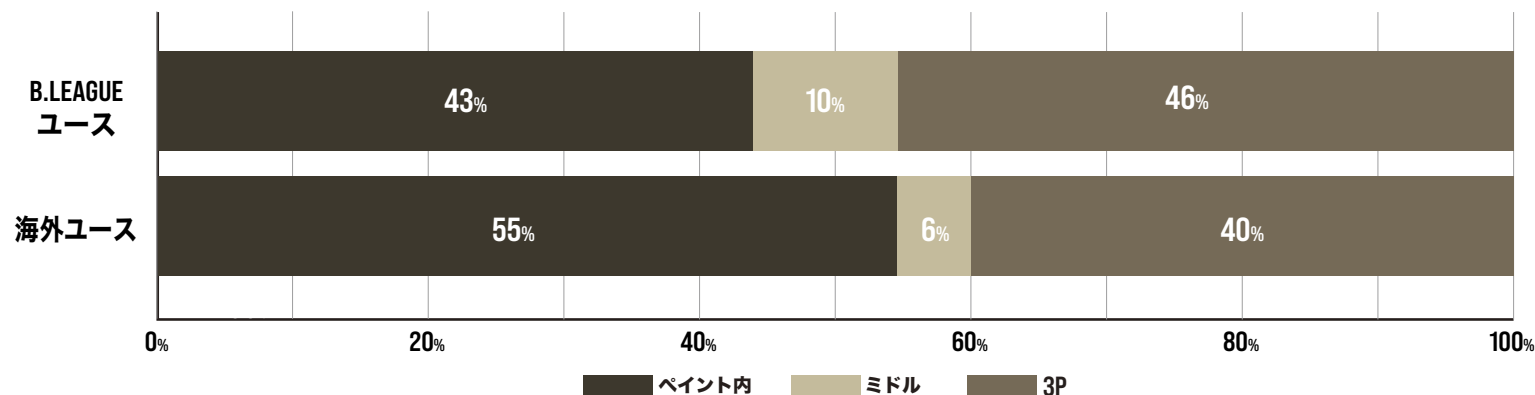
# B.LEAGUE ユースと海外ユースの シュート関連スタッツ比較

海外ユースとの比較

エリア別シュートスタッツ比較

区分	ペイント内			ミドル			3P		
	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率
B.LEAGUE ユース	13.5	31.8	42.6%	2.5	7.7	32.2%	9.5	34.3	27.6%
海外ユース	23.4	38.2	61.3%	1.6	3.9	41.4%	7.9	28.0	28.3%

試投エリア分布比較



次にシュート関連スタッツの比較すると、ペイント内/ミドル/3P、いずれのエリアにおいても、シュートの成功率は海外ユースが上回っている。中でも、特に差が大きかったのがペイント内。海外ユースとの対戦において、ペイント内成功率の差をいかに縮めていけるかが今後の課題となりそうだ。

シュート試投エリアの 100% 内訳を見ると、B.LEAGUE ユースはペイント内シュートと 3P シュートが近い値となっている。サイズ・フィジカルの差がある相手に対して、3P シュート一辺倒にはならず、内外からバランス良くシュートを放つことができています。

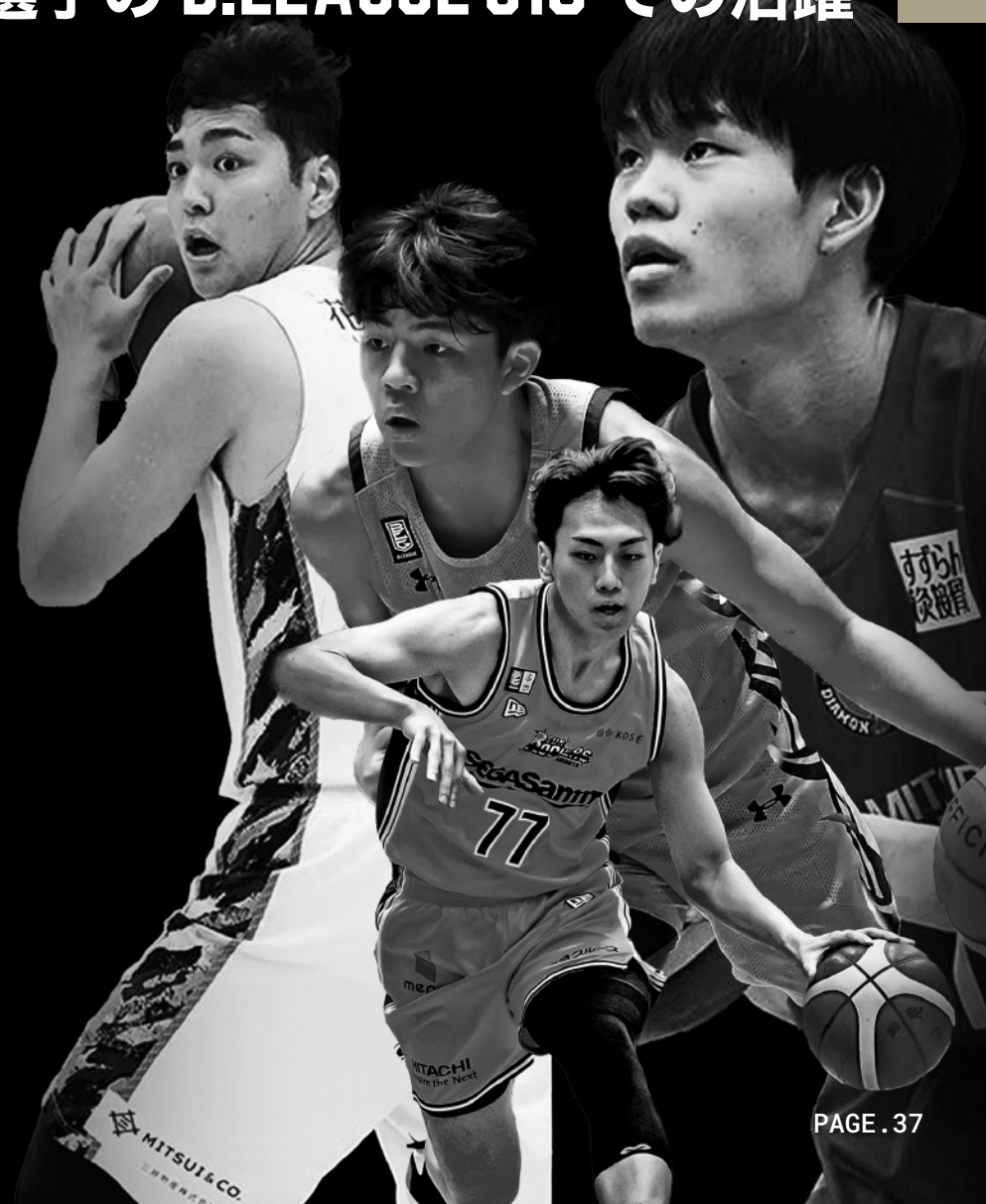
一方、海外ユースと比較すると、B.LEAGUE ユースはミドルシュートの割合が高い傾向にある。海外ユースは 40% で B.LEAGUE ユースを上回っているが、この差を縮めていくためにもショットセレクションには改善の余地があるかもしれない。加えて、最も多くの割合を占めている 3P シュートの成功率を高めていく必要もあるだろう。

# U22 枠契約選手の B.LEAGUE U18 での活躍

# U22 枠契約選手の B.LEAGUE U18 での活躍

本項では、トップチームと U22 枠で契約を果たした B.LEAGUE U18 出身の選手達が、B.LEAGUE ユースにおいてどのような活躍を見せてきたかをスタッツから確認する。  
なお、本レポートは B.LEAGUE U18 の大会を対象としているため、B.LEAGUE U18 の大会への出場経験が豊富な  
内藤 耀悠、大森 康瑛、今西 優斗、佐取 龍之介の 4 選手を取り上げる。

分析のため、各選手の B.LEAGUE ユースにおける大会別のスタッツと、シーズン別でのスタッツ推移を集計した。  
シーズン別でのスタッツ推移については、対戦相手の強度が一定であり、且つ 4 選手のプレータイムが十分にあった大会に絞るため、B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE と  
B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP の 2 大会を対象としている。

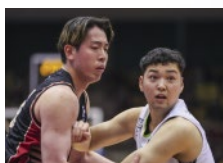




# レバンガ北海道 内藤 耀悠

U22 枠契約選手の B.LEAGUE U18 での活躍

TERUCHIKA NAITO



## 内藤 耀悠

ポジション：SF  
生年月日：2006 年 1 月 11 日 | 19 歳  
身長 / 体重：191cm / 97kg  
出身地：北海道  
出身校：レバンガ北海道 U18  
クラブ所属履歴：2024-25 北海道 2023-24 北海道  
2022-23 北海道

B.LEAGUE ユース表彰歴：

2021：B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP 2021 MVP,  
B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2021 MVP/BEST5,  
B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2022 代替大会 MIP  
2022：B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP 2022 MVP,  
B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2022 MVP/BEST5,  
B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2023 代替大会 MIP  
2023：B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2024 MIP

## 大会別スタッツ

	G	GS	MIN	PTS	3PM	3PA	3P%	2PM	2PA	2P%	FTM	FTA	FT%	eFG%	TS%	ORB	DRB	REB	AST	STL	BLK	TOV	PF	FD	2NDPTS	FBPS	+/-
RL2021	2	2	30:42	13.0	0.0	2.0	0.0%	6.0	8.5	70.6%	1.0	1.5	66.7%	57.1%	58.2%	4.5	6.0	10.5	4.5	4.5	0.5	4.0	2.5	2.5	2.0	4.0	+25.5
CS2021	4	4	31:41	15.8	0.5	0.8	66.7%	6.3	12.8	49.0%	1.8	2.8	63.6%	51.9%	53.5%	2.5	10.0	12.5	7.5	2.5	0.8	3.3	2.3	1.5	4.8	2.0	+23.0
EL2021	5	5	33:44	15.8	1.2	2.8	42.9%	4.4	12.2	36.1%	3.4	4.4	77.3%	41.3%	46.6%	5.8	8.6	14.4	6.8	2.0	1.0	1.6	3.4	4.0	5.8	0.8	+12.8
IC2022	3	3	36:57	15.7	1.0	2.7	37.5%	5.7	13.0	43.6%	1.3	3.0	44.4%	45.7%	46.1%	4.0	11.0	15.0	6.7	2.3	2.0	0.7	1.3	4.3	4.0	1.0	+6.3
RL2022	2	0	06:18	7.0	0.0	0.0	-	3.0	3.0	100.0%	1.0	1.0	100.0%	100.0%	101.7%	1.0	1.5	2.5	2.0	1.0	0.0	0.0	0.0	1.0	1.0	6.0	+16.0
CS2022	3	3	30:49	12.3	0.0	1.3	0.0%	5.3	9.0	59.3%	1.7	3.7	45.5%	51.6%	51.6%	3.0	12.0	15.0	6.3	1.3	2.3	3.0	0.7	3.7	5.3	2.0	+20.0
EL2022	4	4	31:36	18.5	0.3	3.5	7.1%	6.8	10.3	65.9%	4.3	6.3	68.0%	51.8%	56.1%	3.5	10.3	13.8	5.5	3.8	1.8	2.0	1.5	4.3	5.0	4.8	+17.3
IC2023	5	5	35:04	20.6	0.0	1.6	0.0%	8.2	15.8	51.9%	4.2	7.2	58.3%	47.1%	50.1%	7.2	9.8	17.0	3.8	1.6	0.4	2.4	2.4	6.2	7.4	3.6	+8.6
RL2023	4	4	17:48	9.8	0.0	0.8	0.0%	4.3	7.0	60.7%	1.3	2.0	62.5%	54.8%	56.5%	4.0	6.8	10.8	3.0	1.3	1.0	1.3	1.0	2.3	3.5	0.3	+27.0
CS2023	5	4	18:42	9.6	0.4	1.4	28.6%	3.2	5.2	61.5%	2.0	2.2	90.9%	57.6%	63.4%	3.2	6.0	9.2	3.8	3.4	1.6	0.8	1.4	1.4	2.8	1.2	+19.2
EL2023	5	5	26:16	11.8	0.4	2.0	20.0%	4.8	8.6	55.8%	1.0	1.2	83.3%	50.9%	53.0%	3.8	7.8	11.6	4.2	1.6	1.2	1.0	1.4	1.6	3.2	1.6	+15.4
IC2024	4	4	29:42	18.3	1.5	4.5	33.3%	5.0	10.0	50.0%	3.8	4.8	78.9%	50.0%	55.0%	3.8	8.0	11.8	3.5	2.0	1.3	2.3	1.5	4.3	1.8	4.0	+13.0

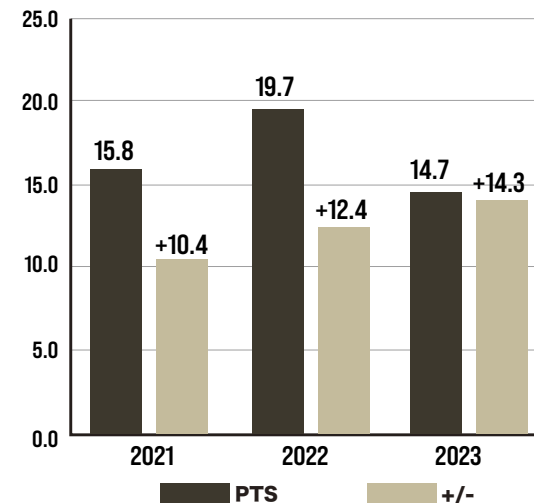
※B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP 2022 については QUARTERFINAL 以降のみのスタッツを記載

大会略号：RL: B.LEAGUE U18 REGIONAL LEAGUE, CS: B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP, EL: B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE, IC: B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP

## エリア別シュート・フリースロースタッツシーズン推移

	ペイント内			ミドル			3P			フリースロー		
	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率
2021	4.0	9.3	43.2%	0.9	3.3	26.9%	1.1	2.8	40.9%	2.6	3.9	67.7%
2022	6.9	12.0	57.4%	0.7	1.3	50.0%	0.1	2.4	4.5%	4.2	6.8	48.9%
2023	3.9	6.6	59.3%	1.0	2.7	37.5%	0.9	3.1	28.6%	2.2	2.8	80.0%

## 得点・+/- シーズン推移



対象大会：

2021: B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2021, B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2022 代替大会  
2022: B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2022, B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2023 代替大会  
2023: B.LEAGUE U18 ELITE8 LEAGUE 2023, B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2024

B.LEAGUEにおけるユース育成特別枠の第1号となった内藤選手は、B.LEAGUE U18の各大会においてチームの中心として活躍を見せてきた。B.LEAGUE U18の3年間で平均出場時間が20分以上となった大会においては、全大会で平均得点・リバウンド共に二桁を超えるダブルダブルを記録している。また、全大会において+/-がプラスとなっており、チームへの貢献度の高さがうかがえる。

シーズン別のスタッツ推移ではペイント内での成功率を年々上げている点が目立つ。B.LEAGUE ユースでの活動を通じて、インサイドでのフィニッシュに磨きをかけていったことが分かる。また、得点と+/-の推移を見ると、2023-24シーズンは得点が3年間で最低値だった一方で、+/-は年々右肩上がりですべて2023-24シーズンが最高値となった。これは自らが得点を取らなくても、チームにリードをもたらすことができるようになっていたことを示している。B.LEAGUE ユースでの活動期間の中で、自身のパフォーマンスを伸ばすだけでなく、チームを勝たせるプレーもできるようになっていったと言えるだろう。



B.LEAGUE U18 STATS REPORT 2025

COPYRIGHT ©JAPAN PROFESSIONAL BASKETBALL LEAGUE ALL RIGHTS RESERVED.



# サンロッカーズ渋谷 大森 康瑛

U22 枠契約選手の B.LEAGUE U18 での活躍

## 大森 康瑛

ポジション：SF  
 生年月日：2005 年 6 月 29 日 | 20 歳  
 身長／体重：194cm / 86kg  
 出身地：東京都  
 出身校：サンロッカーズ渋谷 U18  
 クラブ所属履歴：2024-25 SR 渋谷 2023-24 SR 渋谷  
 B.LEAGUE ユース表彰歴：  
 2021：B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2021 BEST5  
 2022：B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2022 BEST5  
 2023：B.LEAGUE U18 ELITE8 LEAGUE 2022 BEST5

KOUEI OMORI



## 大会別スタッツ

	G	GS	MIN	PTS	3PM	3PA	3P%	2PM	2PA	2P%	FTM	FTA	FT%	eFG%	TS%	ORB	DRB	REB	AST	STL	BLK	TOV	PF	FD	2NDPTS	FBPS	+/-
RL2021	3	3	31:04	28.3	1.7	5.0	33.3%	9.0	16.3	55.1%	5.3	10.3	51.6%	53.9%	54.7%	5.7	6.0	11.7	1.7	1.0	1.3	5.7	2.0	8.0	8.7	8.3	+22.7
EL2021	5	1	27:22	20.8	0.4	2.8	14.3%	7.8	14.4	54.2%	4.0	5.2	76.9%	48.8%	53.4%	5.4	5.2	10.6	1.6	0.6	2.2	4.0	3.4	4.8	5.4	3.2	+5.2
CS2021	1	1	20:46	8.0	0.0	2.0	0.0%	4.0	8.0	50.0%	0.0	0.0	-	40.0%	40.0%	1.0	5.0	6.0	1.0	1.0	0.0	3.0	5.0	2.0	0.0	6.0	-18.0
IC2022	3	0	32:53	25.3	2.3	4.3	53.8%	7.0	17.3	40.4%	4.3	7.7	56.5%	48.5%	50.6%	2.7	8.7	11.3	1.3	1.0	1.0	2.3	3.0	5.3	6.3	2.0	-7.0
RL2022	6	6	26:22	26.0	0.5	2.0	25.0%	10.5	17.8	58.9%	3.5	5.0	70.0%	56.7%	59.0%	6.3	6.0	12.3	1.7	1.5	1.0	4.2	2.3	4.3	8.3	6.2	+22.0
EL2022	5	5	34:03	30.2	0.2	1.6	12.5%	13.6	20.8	65.4%	2.4	5.0	48.0%	62.1%	61.4%	4.2	8.8	13.0	3.4	2.0	2.4	4.2	2.4	4.8	6.2	4.4	+10.2
IC2023	4	4	31:49	18.0	0.5	3.8	13.3%	6.8	15.8	42.9%	3.0	5.5	54.5%	38.5%	41.1%	1.3	6.8	8.0	1.5	0.5	0.5	4.0	3.3	4.3	2.5	4.8	+3.0
RL2023	8	8	23:51	25.4	0.1	1.0	12.5%	10.1	17.4	58.3%	4.8	6.0	79.2%	56.1%	60.4%	3.8	6.3	10.0	1.5	2.1	0.5	2.6	1.4	5.5	8.1	4.8	+28.4
EL2023	6	5	28:14	19.5	0.5	2.5	20.0%	7.5	13.8	54.2%	3.0	4.0	75.0%	50.5%	53.9%	2.7	6.0	8.7	1.5	1.8	2.2	2.0	2.7	3.7	5.0	3.2	+6.3
CS2023	2	2	26:44	24.5	1.5	6.0	25.0%	9.0	14.5	62.1%	2.0	4.0	50.0%	54.9%	55.0%	2.0	3.0	5.0	4.5	1.5	2.0	3.5	1.5	2.5	5.0	4.0	+19.0

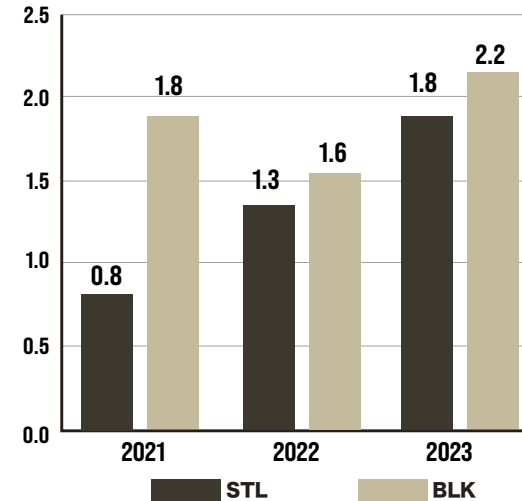
※B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP 2022 については QUARTERFINAL 以降のみのスタッツを記載

大会略号：RL: B.LEAGUE U18 REGIONAL LEAGUE, CS: B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP, EL: B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE, IC: B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP

## エリア別シュート・フリースロースタッツシーズン推移

	ペイント内			ミドル			3P			フリースロー		
	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率
2021	6.9	13.3	51.9%	0.6	2.3	27.8%	1.1	3.4	33.3%	4.1	6.1	67.3%
2022	9.0	14.9	60.4%	1.6	3.7	42.4%	0.3	2.6	13.0%	2.7	5.2	51.1%
2023	5.8	10.3	56.5%	1.7	3.5	47.6%	0.5	2.5	20.0%	3.0	4.0	75.0%

## スティール・ブロック数 シーズン推移



対象大会：

2021: B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2021, B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2022 代替大会  
 2022: B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2022, B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2023 代替大会  
 2023: B.LEAGUE U18 ELITE8 LEAGUE 2023

B.LEAGUE初のU22枠としての契約選手となった大森選手は、B.LEAGUEユースの大会においてその高い得点力を発揮していた。B.LEAGUE U18 REGIONAL LEAGUEにおいては3大会全てで平均25点を超え、B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2022では平均30点超えを記録している。

シーズン別のスタッツ推移では、ミドルシュートの成功率が年々上昇している点が目立ち、2023-24シーズンには47.6%と非常に高い数字となった。フリースローの成功率も2023-24シーズンには75.0%を記録し、この点もB.LEAGUEユースで見た成長と言えるだろう。また、オフェンス面だけでなく、ディフェンス面でのスタッツの伸びも目立ち、平均スティールは毎年右肩上がり。平均ブロックも2023-24シーズンには2.2という非常に高い数字を残した。攻守両面での成長が見られるB.LEAGUEユース活動期間となった。

# 名古屋ダイヤモンドドルフィンズ 今西 優斗

U22 枠契約選手の B.LEAGUE U18 での活躍

YUTO IMANISHI



## 今西 優斗

ポジション：PG

生年月日：2006年5月16日 | 19歳

身長/体重：180cm / 75kg 出身地：愛知県

出身校：名古屋ダイヤモンドドルフィンズ U18

クラブ所属履歴：2024-25 名古屋 D 2023-24 名古屋 D  
2022-23 名古屋 D

B.LEAGUE ユース表彰歴：

2021：B.LEAGUE U15 CHALLENGE CUP 2021 MIP,  
B.LEAGUE U15 CHAMPIONSHIP 2022 MVP/BEST5

2022：B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2022 BEST5,  
B.LEAGUE U16 CHALLENGE CUP 2023 MIP

2023：B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP 2023 BEST5,  
B.LEAGUE U18 ELITE8 LEAGUE 2023 BEST5,

B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2024 MIP

2024：インフロニア B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP 2024 MVP/BEST5,  
インフロニア B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 2024 MVP,  
インフロニア B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2025 MIP

## 大会別スタッツ

	G	GS	MIN	PTS	3PM	3PA	3P%	2PM	2PA	2P%	FTM	FTA	FT%	eFG%	TS%	ORB	DRB	REB	AST	STL	BLK	TOV	PF	FD	2NDPTS	FBPS	+/-
CS2021	3	0	19:56	2.0	0.0	0.0	-	0.7	3.0	22.2%	0.7	2.0	33.3%	22.2%	25.8%	2.7	3.0	5.7	3.0	1.0	0.3	1.7	2.0	1.7	0.0	1.0	+3.3
EL2021	2	0	25:51	14.0	0.0	0.8	-	6.5	8.0	81.3%	1.0	3.0	33.3%	81.3%	75.1%	0.5	4.5	5.0	1.5	2.5	0.0	3.5	3.0	2.0	0.0	5.0	-7.5
IC2022	4	3	29:22	10.8	0.3	1.0	25.0%	3.3	9.3	35.1%	3.5	6.5	53.8%	35.4%	41.0%	2.5	5.0	7.5	3.5	2.5	0.3	1.8	4.3	4.8	1.5	1.8	+2.5
RL2022	2	2	27:41	17.0	0.0	2.5	0.0%	7.5	12.5	60.0%	2.0	3.5	57.1%	50.0%	51.4%	3.0	4.0	7.0	2.0	2.5	0.0	1.5	1.5	3.0	3.5	5.0	+13.5
CS2022	3	3	19:01	11.0	0.3	1.3	25.0%	4.0	8.0	50.0%	2.0	3.0	66.7%	48.2%	51.6%	1.3	3.7	5.0	2.3	2.0	0.0	1.0	0.7	3.0	3.3	3.0	+12.0
EL2022	5	5	31:44	15.6	0.4	2.6	15.4%	6.2	12.8	48.4%	2.0	3.6	55.6%	44.2%	45.9%	3.6	3.6	7.2	6.2	3.6	0.2	2.4	1.2	3.6	2.0	6.2	+19.6
IC2023	3	3	28:21	11.0	0.7	2.0	33.3%	4.0	9.0	44.4%	1.0	3.0	33.3%	45.5%	44.6%	1.3	4.3	5.7	4.0	2.3	0.0	1.3	1.7	3.0	1.3	2.7	+7.7
RL2023	4	3	18:16	17.3	1.0	2.5	40.0%	6.8	11.0	61.4%	0.8	1.0	75.0%	61.1%	61.9%	2.8	4.5	7.3	6.5	5.5	1.0	1.0	1.5	0.5	3.8	7.8	+46.8
EL2023	6	6	26:40	12.8	0.5	2.3	21.4%	4.7	9.7	48.3%	2.0	4.0	50.0%	45.1%	46.6%	1.8	5.8	7.7	5.5	2.7	0.3	2.2	1.7	4.5	1.5	4.5	+16.2
CS2023	5	5	23:54	8.6	0.6	3.2	18.8%	2.4	8.0	30.0%	2.0	3.4	58.8%	29.5%	33.9%	1.6	4.4	6.0	4.8	2.0	0.0	1.4	2.0	2.6	1.4	2.2	+11.6
IC2024	5	5	32:32	20.8	1.2	6.0	20.0%	6.4	11.8	54.2%	4.4	5.0	88.0%	46.1%	52.0%	2.0	6.0	8.0	6.0	3.8	0.2	2.2	2.8	6.0	1.8	4.2	+3.2
RL2024	5	5	22:07	17.6	2.0	6.6	30.3%	5.0	6.2	80.6%	1.6	2.0	80.0%	62.5%	64.3%	2.8	6.0	8.8	5.6	4.2	0.4	1.8	1.0	1.8	2.8	6.8	+37.6
EL2024	5	5	26:48	17.0	2.0	5.6	35.7%	4.6	9.4	48.9%	1.8	2.2	81.8%	50.7%	53.2%	2.0	5.6	7.6	6.2	4.0	0.4	1.4	1.2	2.8	2.8	2.8	+29.8
CS2024	5	5	28:27	19.6	2.0	7.8	25.6%	5.4	9.6	56.3%	2.8	5.0	56.0%	48.3%	50.0%	1.2	7.4	8.6	5.6	4.2	0.2	1.0	1.4	4.8	3.6	5.0	+29.8
IC2025	4	4	30:31	21.3	2.5	8.8	28.6%	5.5	10.0	55.0%	2.8	4.5	61.1%	49.3%	51.3%	2.3	6.3	8.5	3.0	3.8	0.3	3.0	1.0	5.5	2.5	4.0	+3.8

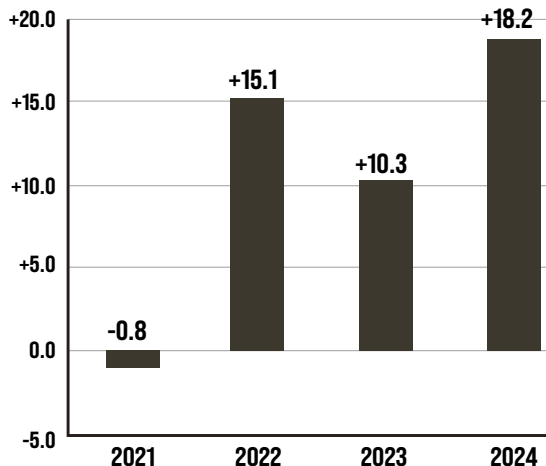
※B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP 2022 については QUARTERFINAL 以降のみのスタッツを記載

大会略号：RL: B.LEAGUE U18 REGIONAL LEAGUE, CS: B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP, EL: B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE, IC: B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP

## エリア別シュート・フリースロースタッツシーズン推移

	ペイント内			ミドル			3P			フリースロー		
	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率
2021	3.8	7.8	48.9%	0.5	1.0	50.0%	0.2	0.7	25.0%	2.7	5.3	50.0%
2022	4.6	8.1	56.9%	0.8	3.3	23.1%	0.5	2.4	21.1%	1.6	3.4	48.1%
2023	4.5	8.0	55.7%	1.0	2.6	37.9%	0.8	4.0	20.5%	3.1	4.5	69.4%
2024	4.0	6.7	60.0%	1.0	3.0	33.3%	2.2	7.0	31.7%	2.2	3.2	69.0%

## +/- シーズン推移



対象大会：

2021：B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2021, B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2022 代替大会

2022：B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2022, B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2023 代替大会

2023：B.LEAGUE U18 ELITE8 LEAGUE 2023, B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2024

2024：インフロニア B.LEAGUE ELITE LEAGUE 2024, インフロニア B.LEAGUE INTERNATIONAL CUP 2025

B.LEAGUE U15に登録しながら中学3年時からU18カテゴリーの大会にも参加していた今西選手。B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2022以降、平均アシストが大幅に増加しプレーメイクの面で大きな成長が見られた。2024年以降の大会では、平均得点は17点以上、平均リバウンドは7前後、加えて平均スティールも4前後を記録するようになり、オールラウンダーとしての活躍が光っていた。

シーズン別のスタッツでは、3Pシュートの試投数を年々増やしB.LEAGUE U18の最終シーズンである2024-25シーズンには成功率を31.7%まで伸ばすなど、アウトサイドからのシュートを向上させた点が目立っている。また、2022-23シーズン以降で+/-が大幅にプラスとなっているが、特に2024-25シーズンの+18.2はチーム全体の+/-とほぼ同じ値。これは、チームのリードのほとんどは今西選手の出場時に生まれていたことを示しており、自身の成長と共にチームへの貢献度も増していったことがうかがえる。

# 琉球ゴールデンキングス 佐取 龍之介

U22 枠契約選手の B.LEAGUE U18 での活躍

RYUNOSUKE SATORI



佐取 龍之介

ポジション：PG/SG (IC 2025 時)  
生年月日：2006 年 9 月 30 日 | 19 歳  
身長/体重：187cm / 77kg  
出身地：栃木県  
出身校：琉球ゴールデンキングス U18  
クラブ所属履歴：2024-25 琉球  
B.LEAGUE ユース表彰歴：  
2022：B.LEAGUE U16 CHALLENGE CUP 2023 MIP  
2023：B.LEAGUE U18 ELITE8 LEAGUE 2023 BEST5  
2024：インフロニア B.LEAGUE U18 CHAMPIONSHIP 2024 BEST5,  
インフロニア B.LEAGUE U18 ELITE LEAGUE 2024 BEST5,  
インフロニア B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2025 MIP

大会別スタッツ																											
	G	GS	MIN	PTS	3PM	3PA	3P%	2PM	2PA	2P%	FTM	FTA	FT%	eFG%	TS%	ORB	DRB	REB	AST	STL	BLK	TOV	PF	FD	2NDPTS	FBPS	+/-
RL2022	4	4	21:42	13.3	1.0	3.5	28.6%	4.3	6.3	68.0%	1.8	2.3	77.8%	59.0%	61.7%	2.3	2.8	5.0	2.5	1.3	0.3	1.0	1.0	1.8	3.8	4.0	+31.0
CS2022	3	3	27:04	18.3	0.7	2.7	25.0%	5.7	9.0	63.0%	5.0	6.0	83.3%	57.1%	64.1%	3.3	4.3	7.7	1.0	1.7	0.0	1.0	2.7	5.0	5.3	6.0	+14.7
EL2022	5	5	27:57	9.8	0.2	2.6	7.7%	3.8	6.2	61.3%	1.6	2.2	72.7%	46.6%	50.2%	2.2	5.2	7.4	2.6	2.0	0.2	3.0	3.0	3.4	1.8	3.2	+1.8
IC2023	2	2	33:04	12.5	1.0	5.0	20.0%	1.5	5.0	30.0%	6.5	9.5	68.4%	30.0%	44.1%	2.5	10.0	12.5	3.0	0.5	0.5	4.5	2.0	6.5	2.0	2.5	0.0
RL2023	6	6	21:34	16.7	1.0	2.3	42.9%	6.0	7.7	78.3%	1.7	2.5	66.7%	75.0%	75.1%	6.2	6.2	12.3	3.3	1.7	0.8	0.8	1.0	3.0	7.7	5.2	+55.5
EL2023	7	7	31:00	14.3	0.9	2.9	30.0%	5.0	9.6	52.2%	1.7	3.3	52.2%	50.6%	51.5%	4.3	6.7	11.0	2.6	0.9	0.1	3.1	1.7	3.6	4.6	2.4	+7.3
CS2023	5	5	28:02	16.8	1.2	2.0	60.0%	4.4	7.8	56.4%	4.4	5.4	81.5%	63.3%	69.0%	4.2	9.8	14.0	2.6	0.2	0.0	1.8	1.8	4.2	5.4	2.2	+23.6
IC2024	4	3	23:55	13.8	0.8	2.5	30.0%	3.8	8.0	46.9%	4.0	5.3	76.2%	46.4%	53.7%	4.0	6.3	10.3	1.3	2.0	0.3	3.0	1.3	4.8	5.5	2.3	+13.3
RL2024	5	5	23:52	21.0	1.4	4.2	33.3%	6.4	9.4	68.1%	4.0	4.2	95.2%	62.5%	68.0%	5.0	7.0	12.0	3.8	2.8	0.8	0.8	1.0	3.2	6.2	6.8	+46.4
EL2024	5	4	23:36	18.0	1.0	3.8	26.3%	4.4	7.2	61.1%	6.2	7.6	81.6%	53.6%	62.7%	3.4	5.2	8.6	1.6	1.8	0.0	3.6	2.0	5.6	6.8	2.2	+13.6
CS2024	5	5	29:12	19.6	1.0	5.6	17.9%	7.0	10.6	66.0%	2.6	4.2	61.9%	52.5%	54.3%	5.0	7.6	12.6	2.6	1.6	0.4	2.0	2.0	4.6	6.4	4.4	+12.8
IC2025	4	4	30:09	28.0	0.8	3.0	25.0%	7.0	12.3	57.1%	11.8	14.3	82.5%	53.3%	65.1%	3.3	7.8	11.0	2.3	1.5	0.0	4.8	2.3	10.3	5.5	4.5	-5.3

エリア別シュート・フリースロースタッツシーズン推移

	ペイント内			ミドル			3P			フリースロー		
	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率	成功数	試投数	成功率
2022	3.1	5.9	53.7%	0.0	0.0	-	0.4	3.3	13.0%	3.0	4.3	70.0%
2023	4.4	8.1	53.9%	0.2	0.9	20.0%	0.8	2.7	30.0%	2.5	4.0	63.6%
2024	5.4	8.3	65.3%	0.1	1.1	10.0%	0.9	3.4	31.7%	8.7	10.6	82.1%

オフENSリバウンド・セカンドチャンスポイント  
シーズン推移

年	ORB	2NDPTS
2022	2.3	1.9
2023	4.2	4.9
2024	3.3	6.2

対象大会：  
2022: B.LEAGUE U18 ELITE6 LEAGUE 2022, B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2023 代替大会  
2023: B.LEAGUE U18 ELITE8 LEAGUE 2023, B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2024  
2024: インフロニア B.LEAGUE ELITE LEAGUE 2024, インフロニア B.LEAGUE INTERNATIONAL CUP 2025

2023-24シーズン以降の大会全てで平均二桁得点を記録し、リバウンドもほとんどの大会で平均二桁を記録している。特に B.LEAGUE U18として最後の大会となったインフロニア B.LEAGUE U18 INTERNATIONAL CUP 2025では平均28.0点、平均被ファウル数10.3、平均フリースロー試投数14.3本を記録しており、相手がファウルなしでは止められない存在となっていた。

シーズン別のスタッツでは、2024-25シーズンにペイント内の成功率、フリースロー試投数が大幅に上がった点が目立つ。フィジカルの強さが増したことで、インサイドでのフィニッシュ力が向上し、フリースロー獲得数も増加したと考えられる。加えて、セカンドチャンスポイントも右肩上がりに増加しており、2024-25シーズンは平均3.3のオフENSリバウンドに対して、6.2点のセカンドチャンスポイントを記録している。オフENSリバウンド獲得後にかなりの確率で自ら得点を決めていることを示しており、プットバックで得点ができるようになったのもフィジカル面での成長の表れかもしれない。





# B.LEAGUE ユースの課題と今後の展望

本レポートでは B.LEAGUE ユースのシーズンごとのスタッツ推移、チーム単位での分析、U18 日清食品トップリーグや海外ユースとの比較を行うことで、B.LEAGUE ユースのここまでの成長や特徴、そして今後に向けた課題を分析してきた。

レポートを通じて様々な成長・特徴が見出された中で、特に目立っていたのはミドルシュートを減らしていく「効率的なショットセレクション」だろう。シーズンごとのスタッツ推移を見ても、年々その傾向は強まっており、U18 日清食品トップリーグとの比較の中でも B.LEAGUE ユースが効率的なショットセレクションを行っている点は際立っていた。「ディフェンスからの速いオフェンス」も B.LEAGUE ユースの特徴としては目立っており、チーム単位で見た時に、「効率的なショットセレクション」と「ディフェンスからの速いオフェンス」で秀でていたチームが勝率上位となった点からも、これらが B.LEAGUE ユースにおける重要な要素であることがうかがえる。

課題としては、「オフェンス効率の向上」が挙げられる。スタッツ推移と U18 日清食品トップリーグの比較からも顕著で、前述の特徴を維持しながらオフェンス効率を高めていけるかは今後の課題である。上述の通り、効率的なショットセレクションができていないものの精度にギャップがあることが見て取れたため、特に 3P シュートの成功率向上は海外ユースチームとの戦いなど、B.LEAGUE が掲げる「世界に通用する選手の輩出」に向けても重要なテーマの一つとなるだろう。

また、U22 枠で B.LEAGUE のトップチームと契約を果たした 4 選手の B.LEAGUE U18 の大会におけるスタッツ分析を通じ、各選手が B.LEAGUE ユース在籍期間の中で、しっかりと成長を見せていたことが明らかとなった。彼らをモデルケースとして、今後も B.LEAGUE ユースからトップチームへと進む事例が増えていくことが期待される。

本レポートから見てきたここまでの成長と今後の課題を踏まえ、B.LEAGUE ユースがさらなる発展を見せていくことを期待したい。



**B.LEAGUE** 10<sup>th</sup>  
B.LEAGUE ANNIVERSARY

公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ | バスケットボール オペレーション Gr

発行日 2025 年 MM 月 DD 日

写真 公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ

制作 公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ

協力 B.STATSLAB

データスタジアム株式会社